

# I 調査の実施概要

## 1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標の達成や内容の定着状況を把握し、指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、その全てを示すものではありません。

## 2 調査実施日

小・中学校とも令和元年12月3日(火)、4日(水)

## 3 調査内容

- 各教科の目標の達成や内容の定着状況に関する「教科に関する調査」
  - ・小4、小5、小6 国語、社会、算数、理科
  - ・中1、中2 国語、社会、数学、理科、英語

## 4 調査方法

- 教科に関する調査
  - ・小学校 各教科 45分 各学校で時間を設定して実施
  - ・中学校 各教科 50分 各学校で時間を設定して実施

## 5 調査の成果指標

### ○ 教科に関する調査

学習指導要領の目標の達成や内容の定着状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

## 6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	166	第4学年	7,398
		第5学年	7,693
		第6学年	7,621
中学校	94	第1学年(県立中学校を含む)	7,101
		第2学年(県立中学校を含む)	6,777
		計	36,590

公立小学校数は、県立特別支援学校小学部（5校）及び義務教育学校前期課程（6校）を含む。  
公立中学校数は、県立中学校（4校）、県立特別支援学校中学部（4校）及び義務教育学校後期課程（6校）を含む。

### 〔注1〕到達基準について

佐賀県では、平成20年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、経年比較も可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問ごとに設定した「期待正答率」を集約したものである。「期待正答率」とは、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、問題の特性や難易度に応じて判断し、小問ごとに以下のような「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

○「十分達成」の到達基準…学習内容の習得が十分であると判断される基準（目標到達基準）

○「おおむね達成」の到達基準…最低限これを上回ることが必要であると判断される基準（最低到達基準）

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、各学校においては、この到達基準を基に、自校の調査結果を分析し、自校の取組を検証するとともに、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■ 修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■ 小・中学校別期待正答率

(注) 上段の数値は「十分達成」、下段の数値は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難			
小学校	基礎的・基本的	(A)	0.85(85%) 0.65(65%)	(B)	0.80(80%) 0.60(60%)		
		発展的・応用的	(C)	0.75(75%) 0.55(55%)	(D)	0.70(70%) 0.50(50%)	(E)
	基礎的・基本的		(A)	0.75(75%) 0.55(55%)	(B)	0.70(70%) 0.50(50%)	
		発展的・応用的	(C)	0.65(65%) 0.45(45%)	(D)	0.60(60%) 0.40(40%)	(E)

## Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

(1) 令和元年度[12月調査]の結果

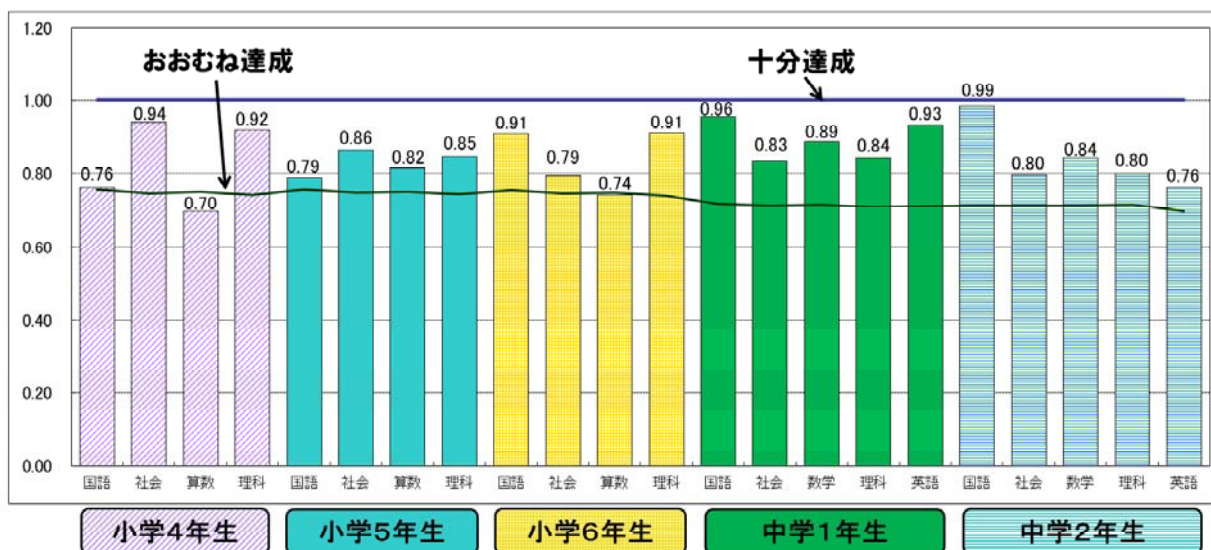
- 令和元年度[12月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準（I 調査の実施概要 P2 [注1] 参照）に対して「おおむね達成」の到達基準を上回ったものは、22教科中20教科（小学校12教科中10教科、中学校10教科中10教科）であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 小学4年生算数と小学校6年生算数が、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られた。

**【表1】各学年・教科の到達状況**

教科	令和元年度[12月調査]の到達状況				平成30年度[12月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	62.6	82.1	62.1	0.76	70.1	82.3	62.3	0.85
小4社会	74.1	78.8	58.8	0.94	76.8	79.2	59.2	0.97
小4算数	55.6	80.0	60.0	0.70	60.6	81.2	61.2	0.75
小4理科	71.4	77.7	57.7	0.92	75.1	79.1	59.1	0.95
小5国語	65.0	82.4	62.4	0.79	60.3	81.3	61.3	0.74
小5社会	68.5	79.3	59.3	0.86	64.4	78.6	58.6	0.82
小5算数	65.4	80.2	60.2	0.82	61.9	80.2	60.2	0.77
小5理科	65.9	77.9	57.9	0.85	65.8	77.5	57.5	0.85
小6国語	74.3	81.8	61.8	0.91	74.6	81.7	61.7	0.91
小6社会	62.4	78.6	58.6	0.79	65.2	78.4	58.4	0.83
小6算数	58.8	79.3	59.3	0.74	69.4	81.5	61.5	0.85
小6理科	69.9	76.8	56.8	0.91	69.2	77.3	57.3	0.90
中1国語	67.4	70.5	50.5	0.96	59.1	71.1	51.1	0.83
中1社会	58.2	69.8	49.8	0.83	57.1	69.2	49.2	0.83
中1数学	62.3	70.2	50.2	0.89	61.2	71.0	51.0	0.86
中1理科	57.9	68.8	48.8	0.84	59.4	70.0	50.0	0.85
中1英語	64.3	69.0	49.0	0.93	65.2	69.4	49.4	0.94
中2国語	68.7	69.7	49.7	0.99	57.8	69.7	49.7	0.83
中2社会	55.3	69.4	49.4	0.80	53.1	69.0	49.0	0.77
中2数学	58.7	69.7	49.7	0.84	60.0	69.8	49.8	0.86
中2理科	56.0	70.0	50.0	0.80	42.2	69.5	49.5	0.61
中2英語	50.1	65.7	45.7	0.76	53.0	66.4	46.4	0.80



[グラフ1] 令和元年[12月調査] 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合



(十分達成=1.00)

(2) 令和元年度[4月調査]との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成31年度[4月調査]の割合を上回ったものは、6教科中5教科であった。

[表2] 国語、算数・数学における各学年・教科の到達状況(平成31年度[4月調査]との比較)

教科	令和元年度[12月調査]の到達状況				平成31年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	65.0	82.4	62.4	0.79	65.3	81.4	61.4	0.80
小5算数	65.4	80.2	60.2	※ ↑ 0.82	65.3	80.4	60.4	0.81
中1国語	67.4	70.5	50.5	※ ↑ 0.96	71.7	82.3	62.3	0.87
中1数学	62.3	70.2	50.2	※ ↑ 0.89	67.2	81.1	61.1	0.83
中2国語	68.7	69.7	49.7	※ ↑ 0.99	61.8	70.6	50.6	0.88
中2数学	58.7	69.7	49.7	※ ↑ 0.84	58.4	70.2	50.2	0.83

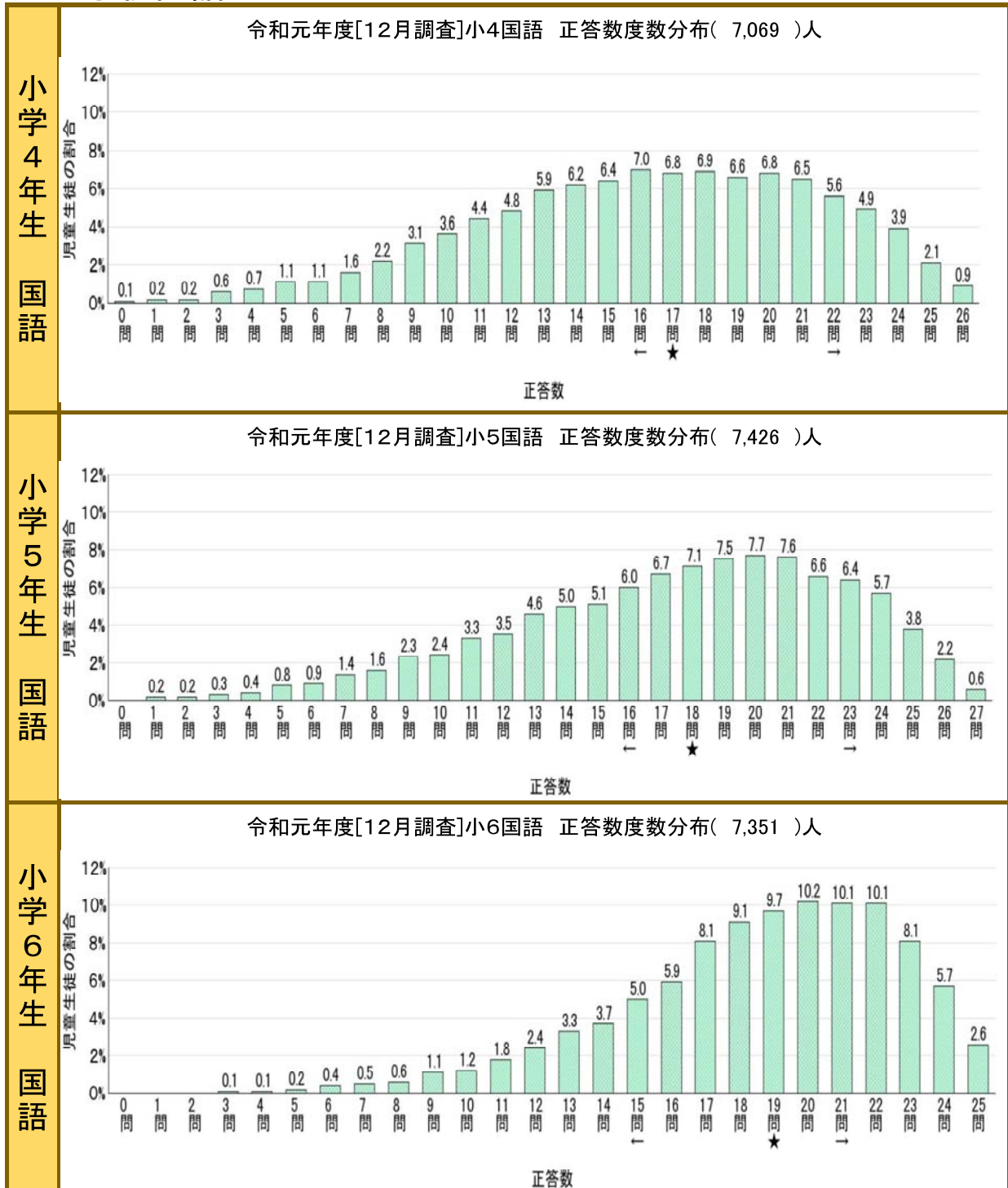
平成31年度[4月調査]においては、該当学年の前学年までの内容(中学1年は、小学6年までの内容)を、また、令和元年度[12月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

※ [表2]にある「↑」は、「十分達成」に対する割合が、平成31年度[4月調査]と比較して上回っている教科を示している。

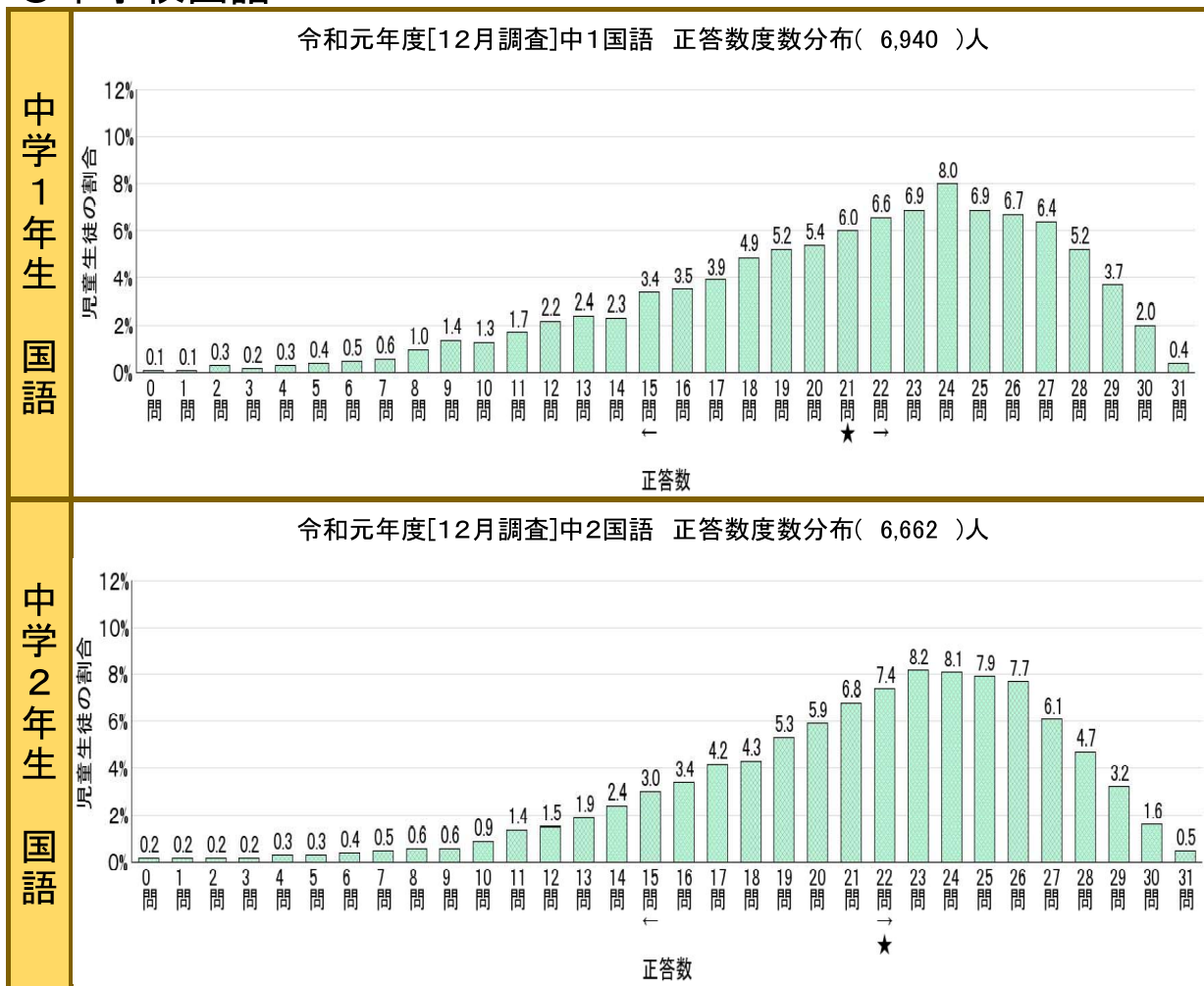
正答数度数分布の状況を示す。

- ・正答数の下にある★印のついた正答数以上が、県正答率を上回っていることを示している。
- ・矢印(←)は、到達基準(「おおむね達成」)を下回る正答数を示している。
- ・矢印(→)は、到達基準(「十分達成」)を上回る正答数を示している。

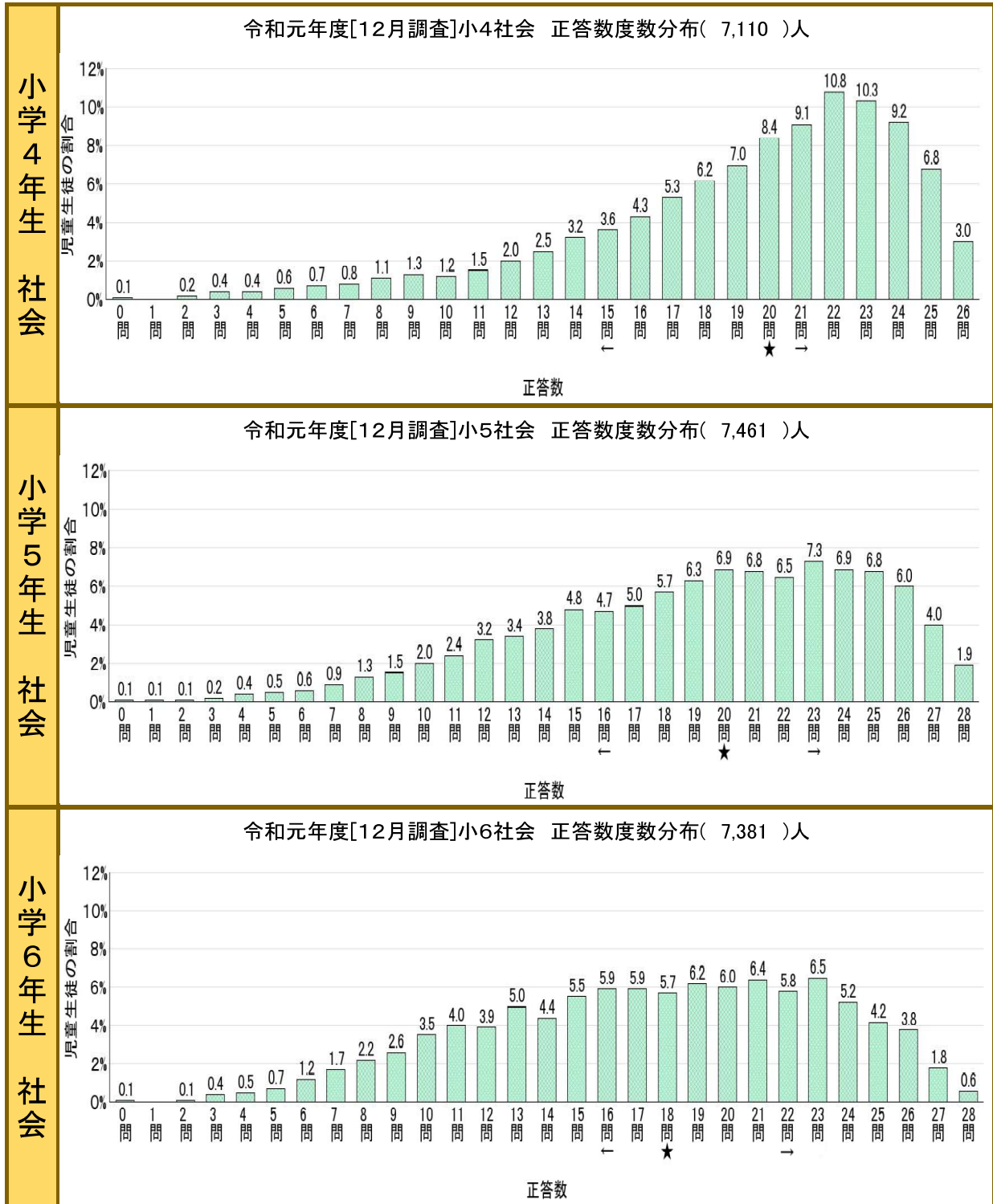
○小学校国語



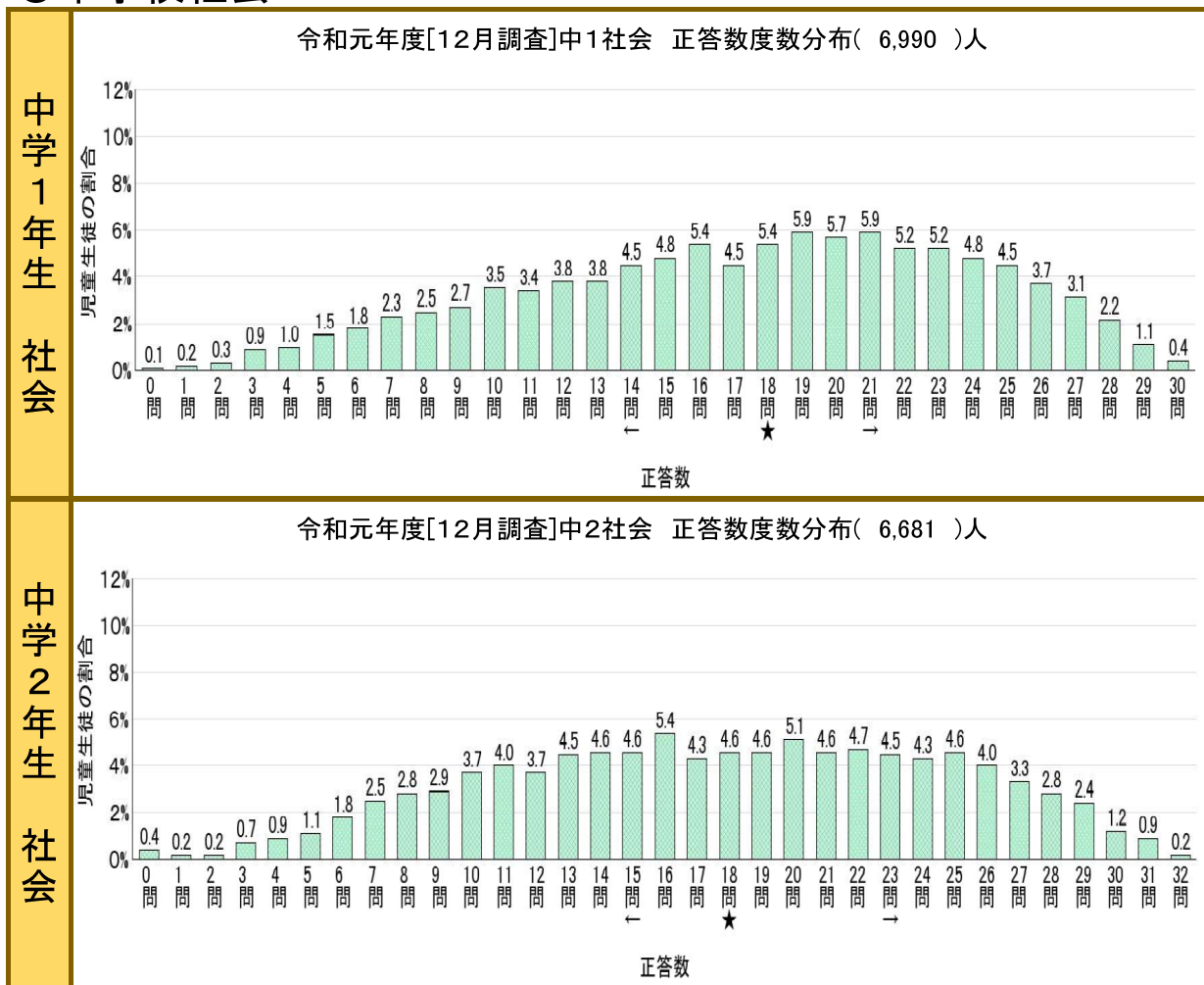
## ○中学校国語



## ○小学校社会

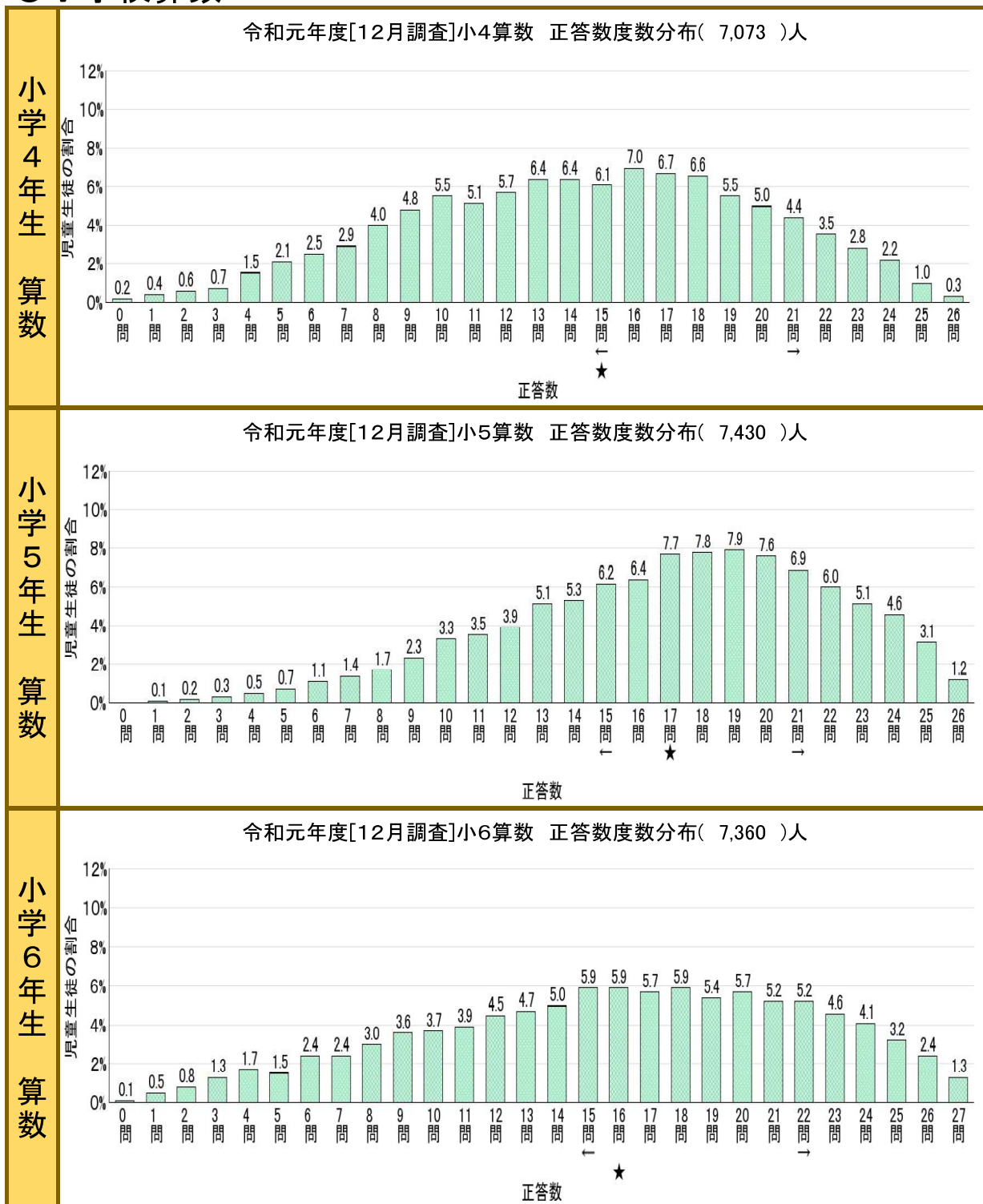


## ○中学校社会

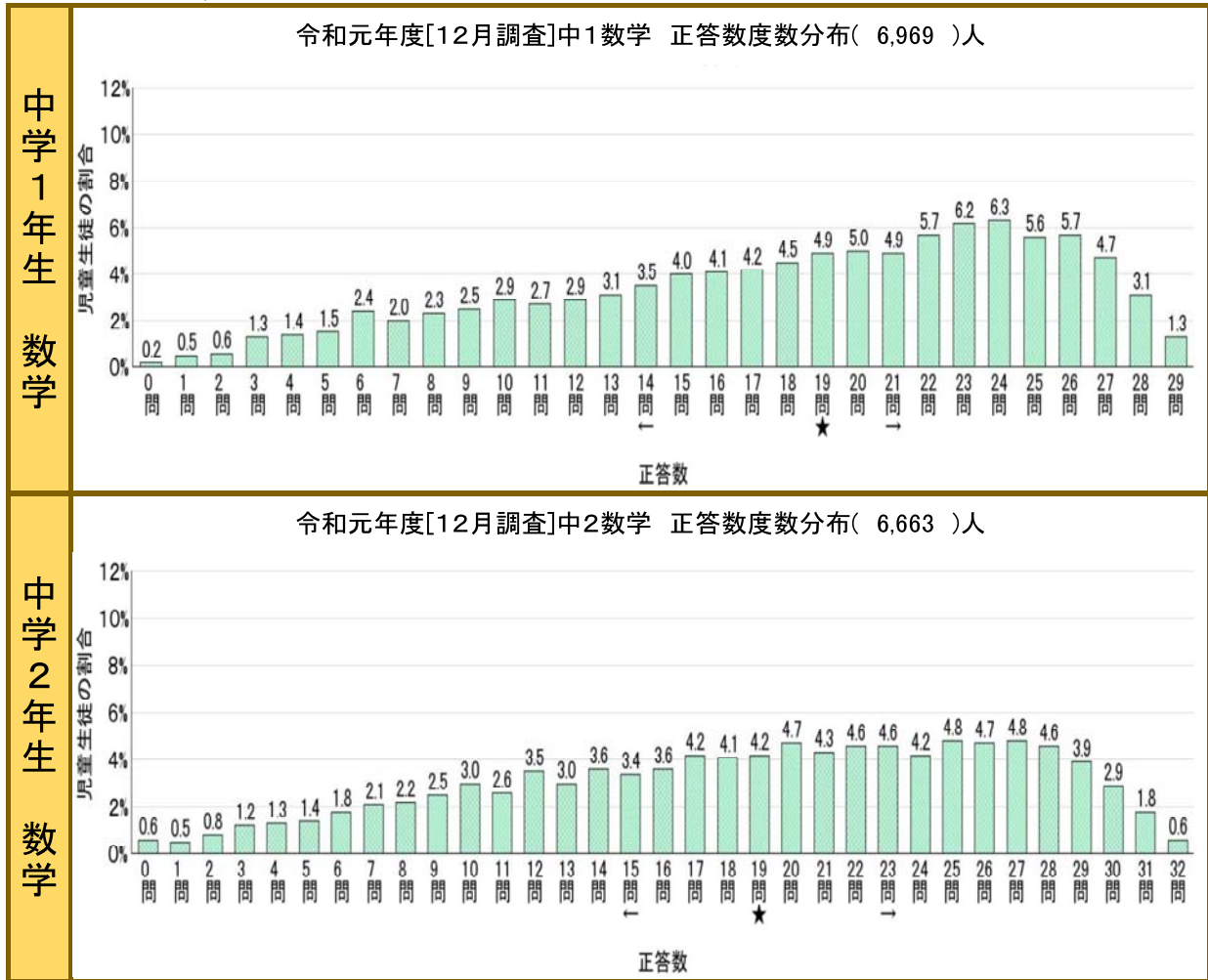




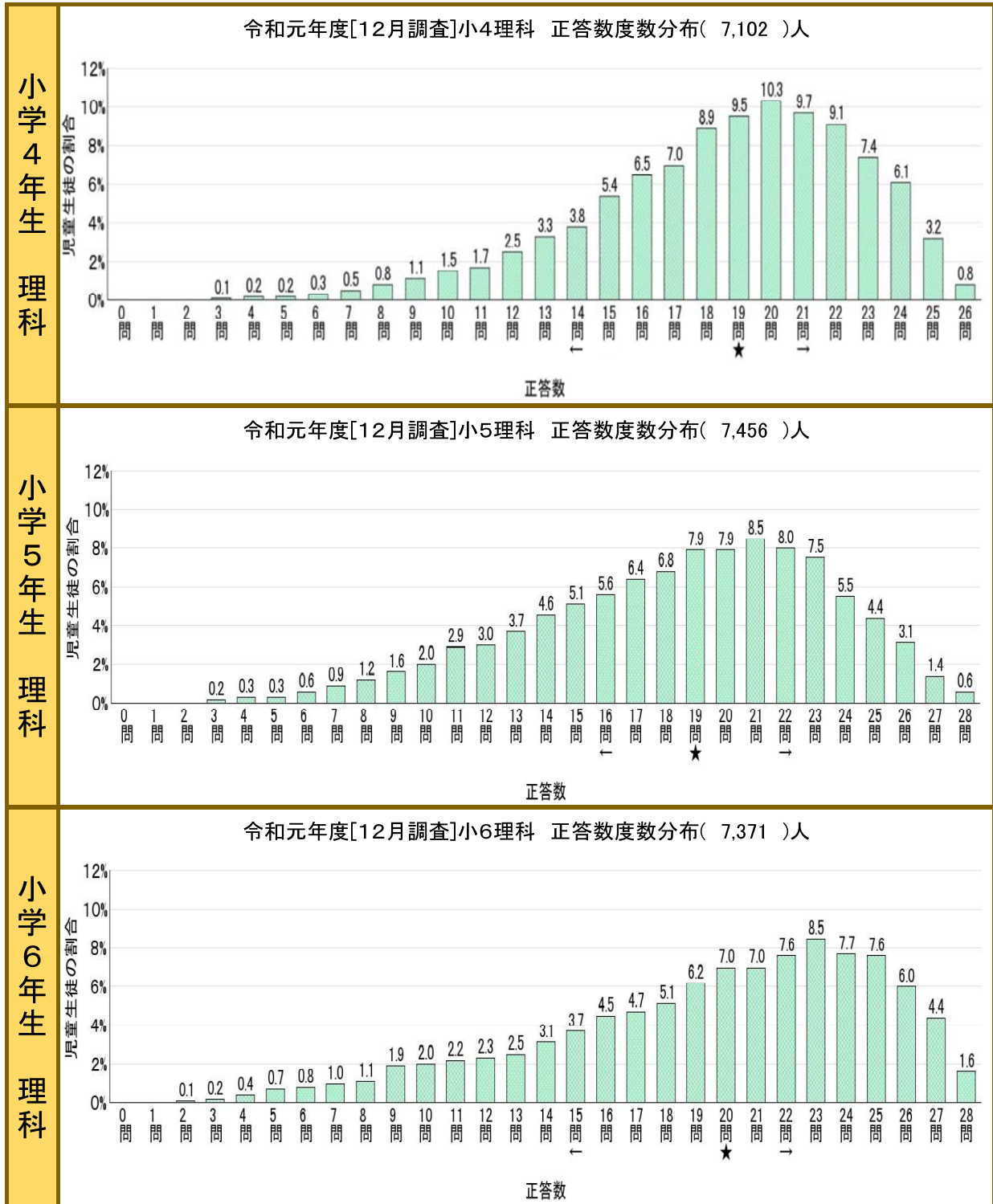
## ○小学校算数



## ○中学校数学

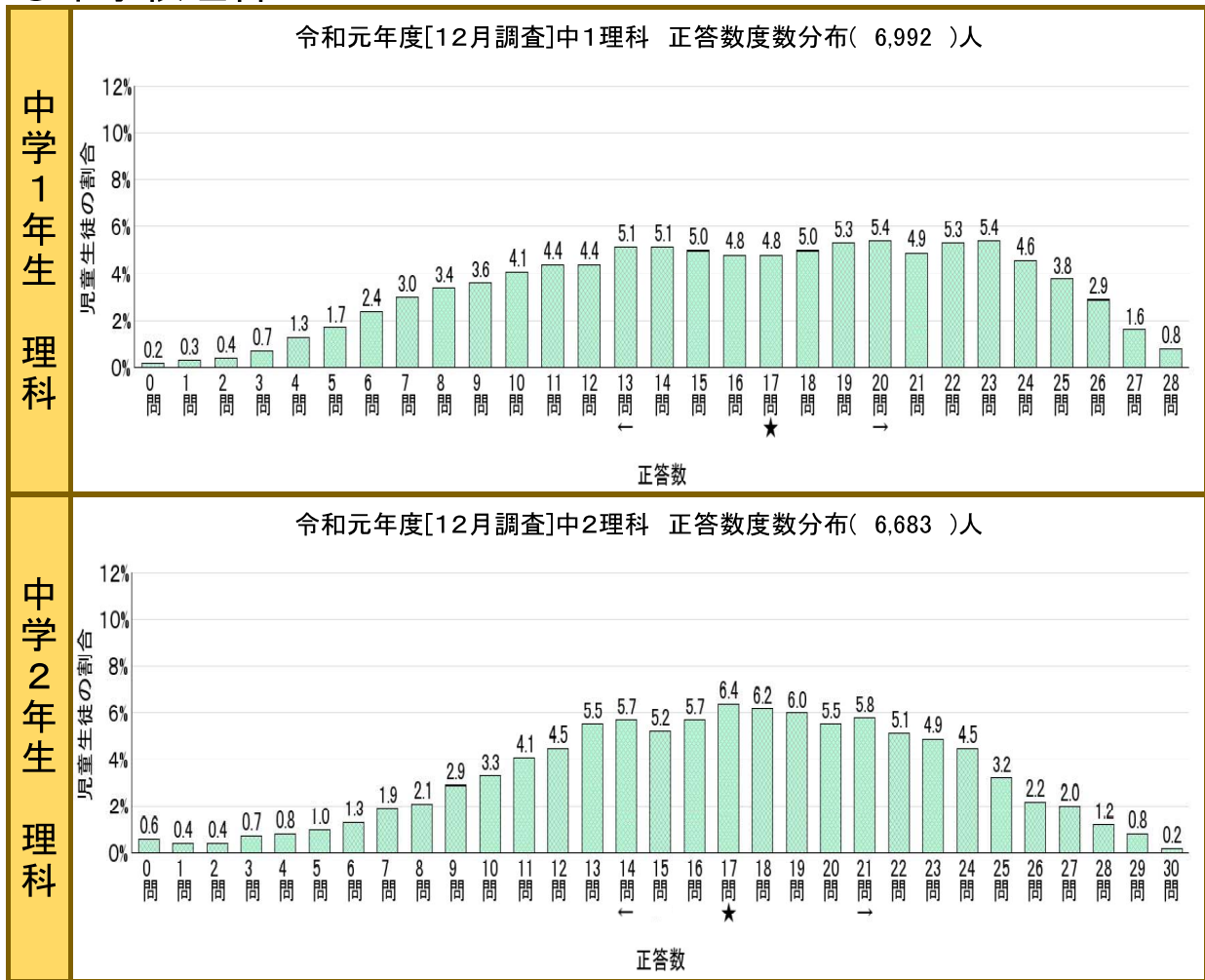


## ○小学校理科

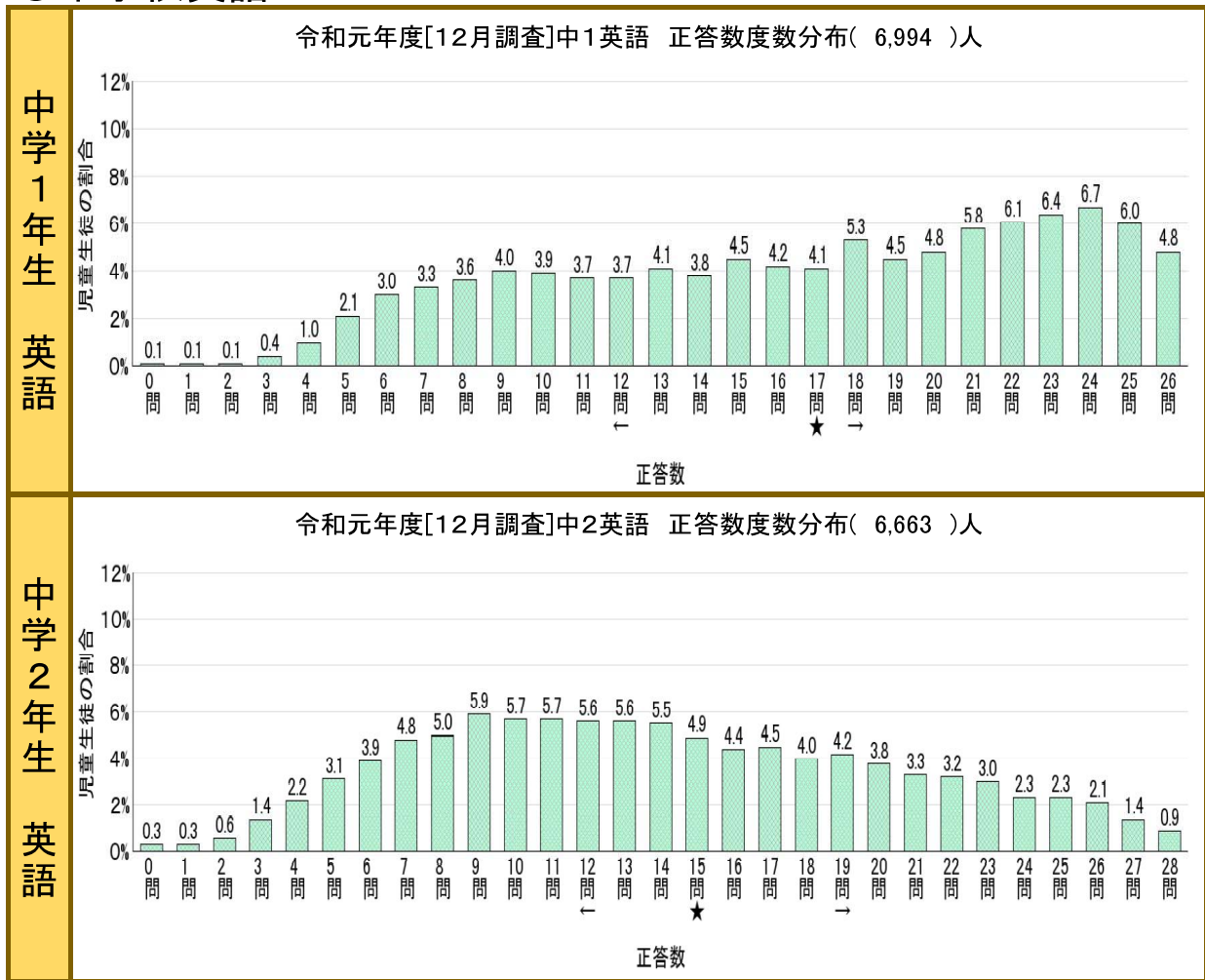




## ○中学校理科



## ○中学校英語



小学校国語（4年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができている。 設問5一
- ◆ 目的や必要に応じて事例を挙げて書くことや、メモを基に書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことに課題が見られる。 設問2四五
- ◆ 叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読んだり、段落相互の関係を捉えて読んだりすることに課題が見られる。 設問3二、4一

■ 特に課題が見られた設問2五の誤答例(・)と解説

<p>・(これからは、)もっとよい学級にするために、たくさんの方を協力していきたいです。</p> <p>・(これからは、)もっとよい学級にしたいです。</p>	<p>・(これからは、)マラソン大会に向けて協力して取り組み、毎月10冊以上の本を読んでいきます。</p> <p>・(これからは、)マラソン大会に向け協力して取り組み、校内音楽祭に向けても協力して取り組みます。</p>	<p>・(これからは、)いろいろなことにちょうせんしましょう。</p> <p>・(これからは、)いろいろな学年と協力し、全校のみんなとなかよくしたいです。</p>
<p>「メモ」の「終わり」の中から、1つを取り上げて書いていて、2つの内容を取り上げて書くという条件を満たしていない。</p>	<p>「メモ」の「終わり」の中から、まだ書いていない内容を取り上げて書くのではなく、すでに「中」に書いた内容を再度取り上げて書いています。</p>	<p>「メモ」を基に書くのではなく、自分の考えを書いている。</p>

■ 設問2五の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**

児童が、メモを基に書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができるようになるためには、以下の授業例のように、書こうとすることの中心に合うメモを選び、選んだメモを使って文章を書くような指導をすることが大切です。

メモの「終わり」に書いた内容  
(田中さんのグループ)

- ・マラソン大会に向けて協力して取り組み。
- ・校内音楽会に向けて協力して取り組み。
- ・毎月10冊以上の本を読む。
- ・もっとよい学級にしたい。

校内音楽会のことと、もっとよい学級にしたいというメモを使って書くことよと思います。

準備した4つのメモのうち、マラソン大会のことと毎月10冊以上の本を読むことは、「中」で具体的に書いています。「終わり」には、これまでに書いていないことを書くことよと思います。

「終わり」には、これから学級のみんなで取り組んでいくことを書きたいので、校内音楽祭のことと、みんなで協力して取り組むことで、もっとよい学級にしたいということを書くことよと思います。

① 紹介する文章の「終わり」を書くために、準備した4つのメモの中から必要なメモを選ぶ。

田中さんのグループは、「終わり」にどのような内容を書こうとしていますか。

② 選んだ2つのメモを使って、紹介する文章の「終わり」を書く。

これから、学級のみみんなで取り組んでいくことについて書こうとしています。

選んだ2つのメモを使って、「終わり」を書きます。どのように書くことよですか。

田中さんのグループは、紹介する文章の「終わり」には4つのメモを準備していますが、その中から必要なメモを選びましょう。

2つのメモを1文にすると、「これからは、校内音楽会に向けて協力して取り組み、もっとよい学級にしたいです。」と書けそうです。

小学校国語（5年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 文末表現に注意して書くことができている。 設問2四
- ◆ グラフを基に分かったことを的確に書いたり、文と文とのつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書いたりすることに課題が見られる。 設問2三五
- ◆ 叙述を基に登場人物の心情を捉えたり、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて自分の考えを明確にしながらかいたりすることに課題が見られる。 設問3二、4三

■ 特に課題が見られた設問4三の誤答例(・)と解説

<p>・地球で起きていることを知り、自分の暮らしを見直すこと(です。)(そのために、)一人一人が地球環境を守っていかなくてはならないのです。</p>	<p>・一人一人が地球環境を守っていかなくてはならないの(です。)(そのために、)今の状況を知り、水をこまめに止めたり、電気をこまめに消したりするなどの取り組みをしていきます。</p>	<p>・物を増やさずに、使える物はまだ使うこと(です。)(そのために、)リサイクルをしたりごみを増やさないようにしたりしたらいいと思います。</p>
<p>筆者の考えを文中から抜き出して書くことはできているが、地球環境を守るために自分にできることを具体的に書くことができていない。</p>	<p>地球環境を守るために自分にできることを具体的に書くことはできているが、筆者の考えを文中から抜き出して書くことができていない。</p>	<p>地球環境を守るために自分にできることを具体的に書くことはできているが、筆者の考えを文中から抜き出して書くのではなく、自分の考えを書いている。</p>

■ 設問4三の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**

児童が、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて自分の考えを明確にしながらかいたりすることができるようにするためには、以下の授業例のように、筆者が伝えたいことを読み取り、自分の考えを書くような指導をすることが大切です。

結論	本論	序論
暮らしを見直す 今すぐ、自分の	環境を守る 一人一人が地球 現れた 人間への被害も れていた 環境が一気に汚 らしたは… 豊かで便利な暮	始めた 地球環境が壊れ

**② 筆者の考えに対する自分の考えを書く。**

筆者の考えについて、自分の考えを書きましょう。地球で起きていることを知ることと、自分の暮らしを見直すことの2つのことについて自分にできることを考えてみましょう。

地球で起きているごみ問題について知るために、新聞やテレビのニュースに関心をもちたいと思います。自分にできることは、ごみを増やさないように、使える物は、最後まで使うことです。

説明文は、どのような構成になっていますか。また、筆者が最も伝えたいことは、どのようなことですか。

序論・本論・結論という構成になっています。

筆者が最も伝えたいことは、結論に書かれている「地球で起きていることを知り、自分の暮らしを見直すこと。それが、私たちが今すぐやらなければならないこと」だと思います。

環境問題を知るために、地球環境について書かれている本を読みたいと思います。自分の暮らしを見直すために、家族と話したいと思います。ぼくは、テレビをつけっぱなしにしていることがよくあるので、電気を無駄遣いしないように自分の部屋を出るときには電気を消すようにします。

小学校国語（6年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 事例を挙げながら自分の考えを話したり、互いの立場や意図を明確にしなが話し合ったりすることができている。 設問1三四
- ◇ 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすることができている。 設問2二
- ◆ 司会の役割を考えて話し合いを進めることや、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題が見られる。 設問1一五
- ◆ 叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えたり、文章の内容を的確に捉えたりすることに課題が見られる。 設問3三、4二

■ 特に課題が見られた設問3三の誤答例(・)と解説

<p>・「ぼく」も、きつねと同じように、「ぼく」のお母さんをいつでも見ていられるように思った(からだと思うよ。)</p> <p>・ぼくは、きつねの母親の話聞いて、自分も独りぼっちでさみしかった(からだと思うよ。)</p>	<p>・「ぼく」は、きつねが指で作った窓の中に、母ぎつねが見えた(からだと思うよ。)</p> <p>・ひし形の窓を見て「ぼくもそんな窓ほしいなあ」と言ったら、きつねはうれしくてたまらないという顔をした(からだと思うよ。)</p>	<p>・「ぼく」も独りぼっちだったから、せめて窓の中だけでも友達をつくりたかった(からだと思うよ。)</p> <p>・きつねが作った窓を見て、「ぼく」はきつねに指を染められるのはぜったいにいやだと思っていた(からだと思うよ。)</p>
<p>「ぼく」の心情の変化や変化した理由を捉えることはできているが、「どうい窓を見て」そういう気持ちになったのかを捉えることができていない。</p>	<p>「どうい窓を見て」そういう気持ちになったのかを捉えることはできているが、ぼくの心情がどのように変化したのかを捉えることができていない。</p>	<p>ぼくの心情に関わる表現を捉えることはできているが、文章の内容を正しく読み取ることができていない。</p>

■ 設問3三の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**

児童が、叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えることができるようになるためには、以下の授業例のように、心情が想像できる表現を探し、心情や心情が変化した理由について考えるような指導をすることが大切です。

ぼくも見たいな  
ぼくもそんな窓  
がほしいなあ。」

ぼっち。

実は、ぼくも独り

びっくりして、

ぼくは、あんまり

むっとしている

指なんか染められ  
てたまるかいい。」

② 登場人物の心情の変化とその理由について、叙述を基に考える。

「ぼく」の心情は、どのような理由でどう変化したのかについてグループで話し合ってみましょう。

① 登場人物の心情を捉える。

「ぼく」の心情が想像できる表現は、どれですか。

行動や会話、様子を表す表現から分かります。

そこから、どのような心情だと想像できますか。

物語の前半では、むっとして「指なんか染められてたまるかいい。」と言っているから、きつねに指を染められるのは絶対に嫌だと思っていたと思います。

物語の後半では、「ぼくも、そんな窓がほしいなあ。」と言って、テーブルの上に両手を置いているから、「ぼく」はきつねに指を染めてもらいたいと思っています。

きつねが作った窓を見た後、きつねの話にうんうんとうなずいているから、きつねに対する心情が変化してきていると思います。

母ぎつねをいつでも見られるからさみしくなくなったというきつねの話に感激したのは、「ぼく」も独りぼっちだったからだと思います。だから、「ぼくも、そんな窓がほしいなあ。」と言っていると思います。

「ぼく」は、物語の前半では指を染めたくないと思っていたのに、後半ではきつねに指を染めてもらっています。「ぼく」の心情が変化したのは、独りぼっちだった「ぼく」が、きつねの窓を見て、自分も窓を作って、会いたいと思っている人を見てみたいと思ったからだと思います。

集計結果 ※「◎」は「十分達成」, 「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,069	62.6	3.6	82.1	62.1	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	67.8	1.9	80.0	60.0	
	書く	5	59.3	4.2	81.0	61.0	▼
	読む	5	49.3	3.0	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	93.3	2.4	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	69.9	4.0	85.0	65.0	
	語句に関する知識	5	51.1	5.9	83.0	63.0	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	67.8	1.9	80.0	60.0	
	②書く	5	59.3	4.2	81.0	61.0	▼
	③読む	5	49.3	3.0	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	11	67.8	4.4	84.1	64.1	
問題形式	選択式	15	57.6	2.3	82.3	62.3	▼
	短答式	9	73.9	5.1	84.4	64.4	
	記述式	2	49.0	7.3	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	2	49.0	7.3	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	一	自分の考えと比較しながら聞く	○					○				○			71.6	0.6	85	65	
1	二	司会の役割を理解し、進行に沿って話し合いを進める	○					○				○			73.6	0.6	85	65	
1	三	互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理する	○					○				○			70.3	1.1	80	60	
1	四	自分の感想や意見を述べたり、分からない点を質問したりする	○					○				○			64.2	1.0	80	60	
1	五	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○				○	○		59.2	6.3	70	50	
2	一	相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる	○					○				○			57.1	0.9	85	65	▼
2	二	段落相互の関係に注意して文章を構成する	○					○				○			72.1	1.4	85	65	
2	三1	敬体と常体の違いに注意しながら書く	○					○				○			69.3	7.5	85	65	
2	三2ア	文脈に即して漢字を正しく書く「遊んで」			○				○			○			85.5	2.5	85	65	◎
2	三2イ	文脈に即して漢字を正しく書く「寒い」			○				○			○			49.4	3.8	85	65	▼
2	三2ウ	文脈に即して漢字を正しく書く「深め」			○				○			○			75.0	5.7	85	65	
2	四	目的や必要に応じて、事例を挙げて書く	○					○				○			58.9	2.7	80	60	▼
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○					○				○	○		38.8	8.4	70	50	▼
3	一	登場人物の会話に即して読む		○					○			○			63.2	1.6	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む	○					○			○			45.7	1.9	80	60	▼
4	一	段落相互の関係を捉えて読む	○					○			○			40.4	3.4	80	60	▼
4	二	文章の要点に注意しながら読み、要約する	○					○			○			42.5	4.0	80	60	▼
4	三	中心となる語や文を捉える	○					○			○			54.9	3.9	80	60	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「倉庫」		○					○		○			93.1	2.3	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「申しこむ」		○					○		○			91.7	2.5	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「種類」		○					○		○			95.1	2.3	85	65	◎
5	二1	主語と述語の関係を理解する			○				○		○			47.2	2.9	85	65	▼
5	二2	主語と述語の関係を理解する			○				○		○			64.9	3.3	85	65	▼
5	三	修飾と被修飾の関係を理解する			○				○		○			37.4	4.4	80	60	▼
5	四1	ローマ字を正しく書く「mado」			○				○		○			28.7	10.8	80	60	▼
5	四2	ローマ字を正しく読む「かえる」			○				○		○			77.6	8.2	85	65	



集計結果 ※「◎」は「十分達成」, 「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,426	65.0	3.4	82.4	62.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	68.3	0.6	82.0	62.0	
	書く	5	55.0	5.7	81.0	61.0	▼
	読む	5	50.1	3.4	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	3	85.7	3.2	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	79.3	3.1	85.0	65.0	
	語句に関する知識	6	65.7	4.1	83.3	63.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	68.3	0.6	82.0	62.0	
	②書く	5	55.0	5.7	81.0	61.0	▼
	③読む	5	50.1	3.4	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	12	74.1	3.6	84.2	64.2	
問題形式	選択式	13	63.0	1.5	83.1	63.1	▼
	短答式	11	71.9	5.2	84.5	64.5	
	記述式	3	48.5	5.1	71.7	51.7	▼
活用	「活用」に関する問題	3	48.5	5.1	71.7	51.7	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		十分達成
1	一	話し手の意図を捉え、自分の意見と比べながら聞く	○					○				○			80.6	0.2	85	65	
1	二	事例を挙げて明確に話す	○					○				○			60.3	0.4	80	60	
1	三	意図を明確にし、話し合いを計画的に進める	○					○				○			71.7	0.3	85	65	
1	四	話し手の意図を捉えながら、話の展開に沿って質問する	○					○				○			72.1	0.5	85	65	
1	五	自分の立場を明確にして、理由を挙げながら話す	○					○				○	○		56.8	1.5	75	55	
2	一	情報を分かりやすく伝えるために、工夫して書く	○					○				○			56.1	0.3	85	65	▼
2	二	目的や意図に応じて、まとめて書く	○					○				○	○		62.6	3.8	70	50	
2	三	グラフを基に、分かったことを的確に書く	○					○				○			34.3	7.6	80	60	▼
2	四	文末表現に注意して書く	○					○				○			87.9	4.7	85	65	◎
2	五	文と文とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	○					○				○			34.1	12.1	85	65	▼
2	六1	文脈に即して漢字を正しく書く「好き」				○			○			○			95.5	2.4	85	65	◎
2	六2	文脈に即して漢字を正しく書く「種類」				○			○			○			82.2	3.8	85	65	
2	六3	文脈に即して漢字を正しく書く「初めて」				○			○			○			60.1	3.2	85	65	▼
3	一	登場人物の人物像がよく分かるように音読する	○					○				○			58.6	1.1	85	65	▼



設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式		「活用」に関する問題	県 正答率		十分達成
3	二	叙述を基に、登場人物の心情を捉える		○				○		○			46.9	1.3	80	60	▼
4	一	文章の内容を的確に押さえる		○				○		○			61.2	2.3	85	65	▼
4	二	中心となる語を捉える		○				○		○			57.4	2.3	80	60	▼
4	三	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて、自分の考えを明確にしなが読む		○				○			○	○	26.2	9.9	70	50	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「規則」		○				○		○			88.3	3.3	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「努める」		○				○		○			73.8	4.4	85	65	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「判断」		○				○		○			95.1	2.0	85	65	◎
5	二1	修飾と被修飾との関係を理解する				○		○		○			78.5	2.2	80	60	
5	二2	修飾と被修飾との関係を理解する				○		○		○			16.1	2.3	80	60	▼
5	三1	国語辞典の使い方について理解する				○		○		○			70.1	7.1	85	65	
5	三2	国語辞典の使い方について理解する				○		○		○			69.7	6.4	85	65	
5	四1	慣用句の意味を知る（風の便り）				○		○		○			81.4	3.2	85	65	
5	四2	慣用句の意味を知る（はめを外す）				○		○		○			78.3	3.3	85	65	

集計結果 ※「◎」は「十分達成」, 「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,351	74.3	1.2	81.8	61.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.3	0.6	80.0	60.0	
	書く	5	75.7	1.1	80.0	60.0	
	読む	5	58.8	2.2	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	3	94.5	1.0	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	88.5	1.3	85.0	65.0	◎
	語句に関する知識	4	69.8	1.2	83.8	63.8	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.3	0.6	80.0	60.0	
	②書く	5	75.7	1.1	80.0	60.0	
	③読む	5	58.8	2.2	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	10	82.8	1.2	84.5	64.5	
問題形式	選択式	15	72.4	0.6	83.0	63.0	
	短答式	7	90.0	1.3	84.3	64.3	◎
	記述式	3	47.4	4.0	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	47.4	4.0	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		十分達成
1	一	司会の役割を考えて話し合いを進める	○					○				○			40.8	0.3	85	65	▼
1	二	自分の考えと比べ、共通点や相違点などを整理し、自分の考えをまとめる	○					○				○			83.9	0.1	80	60	◎
1	三	事例を挙げながら自分の考えを話す	○					○				○			95.0	0.2	80	60	◎
1	四	互いの立場や意図を明確にしなが話し合う	○					○				○			92.5	0.2	85	65	◎
1	五	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	○					○				○	○	44.4	1.9	70	50	▼	
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える	○					○				○			54.1	0.2	80	60	▼
2	二	目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする	○					○				○			96.4	0.1	85	65	◎
2	三	目的や必要に応じて事例を挙げて書く	○					○				○			84.1	0.2	85	65	
2	四	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く	○					○				○	○	62.9	2.9	70	50		
2	五1ア	文脈に即して漢字を正しく書く「夢」			○				○			○			94.0	0.9	85	65	◎
2	五1イ	文脈に即して漢字を正しく書く「準備」			○					○		○			78.4	1.6	85	65	
2	五1ウ	文脈に即して漢字を正しく書く「増やして」			○					○		○			93.1	1.5	85	65	◎
2	五2	敬体と常体の違いに注意しながら書く	○					○				○			80.9	2.1	80	60	◎
3	一	登場人物の心情や場面についての描写を捉える	○						○			○			70.2	0.5	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	二	叙述を基に、登場人物の心情を捉える		○				○			○			83.1	0.7	80	60	◎
3	三	叙述を基に、登場人物の心情の変化を捉える		○				○			○	○	34.9	7.1	70	50	▼	
4	一	表現の工夫を捉える		○				○		○			58.0	1.2	85	65	▼	
4	二	文章の内容を的確に捉える		○				○		○			48.2	1.3	80	60	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「往復」		○				○		○			92.8	0.9	85	65	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「営む」		○				○		○			92.0	1.4	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「降りる」		○				○		○			98.7	0.7	85	65	◎	
5	二	敬語の使い方を理解する				○		○		○			45.5	0.9	80	60	▼	
5	三1	接続語の使い方を理解する				○		○		○			88.4	1.1	85	65	◎	
5	三2	接続語の使い方を理解する				○		○		○			86.1	1.2	85	65	◎	
5	四	漢字四字の熟語の構成を理解する				○		○		○			59.4	1.5	85	65	▼	

小学校社会（4年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)


- ◇ 販売の仕事に見られる集客の工夫や、古くから残る暮らしに関わる道具を理解することができている。 設問 2(2)、6(1)
- ◇ 資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力、人口の変化とごみの量の変化を読み取る技能が身に付いている。 設問 2(1)、3(1)
- ◆ 資料から、森林の働きを読み取る技能に課題が見られる。 設問 4(3)
- ◆ 資料から、必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することに課題が見られる。 設問 1(3)

■ 課題が見られた設問 1(3)の誤答例(・)と解説

誤答例 1	誤答例 2	誤答例 3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(そこから、)東に曲がり進むと神社があります。そこを、おばあちゃんから見て西に進んでいく(と病院があります。)</li> <li>・(そこから、)東に曲がって行くと神社があって、神社から見て西に行く(と病院があります。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(そこから、)西へ行って、神社を通って北に行く(と病院があります。)</li> <li>・(そこから、)西に曲がって進むと神社があります。そこを東に曲がって進んでいけば図書館(と病院があります。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(そこから、)右にまがると神社があって、左に曲がってまっすぐいく(と病院があります。)</li> <li>・(そこから、)左にいて、神社のところでまっすぐいく(と病院があります。)</li> </ul>
<p>四方位を理解することはできているが、自分から見て左側を西というように、方位記号に着目することができていないために、正しく表現することができていない。</p>	<p>四方位を誤って理解しているため、正しく表現することができない。</p>	<p>四方位を正しく表現することができない。</p>

■ 設問 1(3)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント（※「県の様子」で例示しています。）

**指導改善のポイント**  
 児童が、資料から必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することができるようになるためには、以下の授業例のように、資料を読み取る際に、条件を基に気付きを挙げて、説明することができるように指導することが大切です。

<p>① 佐賀県の交通の様子を見て、気付きを挙げる。</p> <p>地図</p>  <p>佐賀県では、道路や鉄道がどのように通っていますか。地図を見て、方位を表す言葉を使って気付きを挙げましょう。</p> <p>佐賀市は、34号線が東西に通っています。</p> <p>佐賀市は、高速道路の長崎自動車道も東西に通っています。</p> <p>九州新幹線が鳥栖市を南北に通っていて、他の県に行くのに便利です。</p>	<p>② 佐賀県の交通の様子を見て、目的地への行き方を、方位を表す言葉を使って説明する。</p> <p>佐賀市から嬉野市に自動車で行くにはどのような行き方ができますか。方位を表す言葉を使って、説明しましょう。</p> <p>嬉野市を見つけたよ。西側には、長崎県があるね。</p> <p>まず、佐賀市から34号線を西に進み、武雄市まで行きます。そして、武雄市から左に曲がって進むと、嬉野市に着きます。</p> <p>方位を表す言葉を使って言わないといけないから、左ではなく西じゃないかな。</p> <p>嬉野市は武雄市から見て、どの方角ですか。</p> <p>南の方角です！</p> <p>佐賀市から、34号線を西に進み、武雄市まで行きます。そして、武雄市から南に向かって進めばいいです。</p> <p>そうですね。それでは、佐賀市から唐津市や鳥栖市への行き方についても、方位を表す言葉を使って、隣の人と説明し合しましょう。</p>
--	---

## 小学校社会（5年生）

### ■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 世界の国名、国旗（大韓民国、ブラジル）や、米づくりの仕事について理解することができている。  
設問 2(1)、4(1)
- ◇ 資料から、漁業に関わる人々の工夫や、自動車づくりに関わる人々の工夫を読み取る技能が身に付いている。  
設問 5(2)、7(2)
- ◆ 日本が抱える領土問題や日本の気候の特色についての理解に課題が見られる。  
設問 2(3)、3(2)
- ◆ 複数の資料を関連付けて、給食で米粉が使われている目的について説明したり、自給率が低下してきた理由について説明したりすることに課題が見られる。  
設問 4(5)、6(2)

### ■ 特に課題が見られた設問6(2)の誤答例(・)と解説

- ・外国から輸入しているから日本はあまり作っていない。
- ・他の国から輸入する量が多くなってきているから。
- ・輸入してくる外国産のものを食べているから。

「食料の輸入量が増えてきていること」は記述することができているが、「外国産の食料の値段が、国産よりも安いこと」が記述することができていない。

- ・国産の食料の方が高いから。
- ・外国産の方が安いから。
- ・国産と外国産のねだんの差が大きいから。

「外国産の食料の値段が、国産よりも安いこと」は記述することができているが、「食料の輸入量が増えてきていること」が記述することができていない。

- ・肉より野菜が増えてきている。
- ・農業する人がへってきているから。
- ・とれたものを外国に輸出しているから。

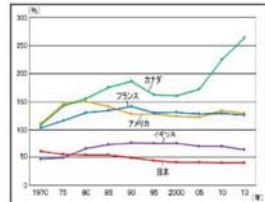
「外国産の食料の値段が、国産よりも安いこと」も、「食料の輸入量が増えてきていること」も記述することができていない。

### ■ 設問6(2)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

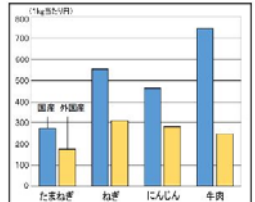
#### 指導改善のポイント

児童が、複数の資料を関連付けて、説明することができるようになるためには、以下の授業例のように、資料を一つ一つ読み取り、読み取ったことをつなげて説明することができるように指導することが大切です。

資料1 日本と主な国の食料自給率



資料2 国産と外国産の食料のねだん



① 自給率が低下してきた理由を資料から読み取り、説明する。

資料1を見ると、日本の自給率が低下してきています。なぜだと思いますか。資料2から読み取って説明しましょう。

資料2を見ると、野菜も牛肉も、国産より外国産が安いことが分かります。

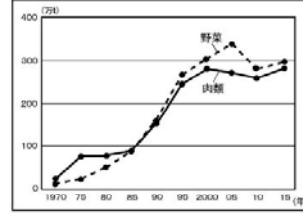
安い外国産の野菜や牛肉がたくさん買われているので、国産が売れなくて、生産量が減ってきたからではないかな。

この資料だけでは、外国産がたくさん買われているかどうかは分からないね。

外国産のものをたくさん買っているかどうかを調べるためには、どのような資料があれば分かりますか。資料を探して、説明しましょう。

② 自給率が低下してきた理由を複数の資料を関連付けて、説明する。

資料3 食料品別の輸入量の変化



資料3「食料品別の輸入量の変化」というグラフがありました。このグラフを見ると、外国産の野菜や肉類の輸入量の変化が分かります。

グラフから、野菜も肉類も1970年と比べると、輸入している量がだんだん増えていることが分かります。

それでは、日本の自給率が低下してきたのはなぜですか。資料2と資料3から考えられることをつなげて説明しましょう。

資料2と資料3から、外国産の野菜や牛肉が国産よりも安くて、輸入量が増えてきたから、国産の野菜や牛肉の生産量が減り、自給率が低くなってきたのだと思います。

## 小学校社会（6年生）

### ■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 資料から、前方後円墳の分布や古墳の種類、武士と貴族の生活の違いなどを読み取る技能が身に付いている。 設問2(3)、4(1)
- ◇ 複数の資料から、江戸時代の農民の暮らし、戦時中の国民の生活の様子について読み取る技能が身に付いている。 設問5(4)、8(2)
- ◆ 資料を基に、天皇の力が全国に及んでいたと考えられる理由や、江戸幕府が大名の配置を工夫した理由について説明することに課題が見られる。 設問3(3)、5(2)
- ◆ 明治政府の政策や満州事変以降の戦争の広がりについての理解に課題が見られる。 設問6(2)、8(1)

### ■ 特に課題が見られた設問5(2)の誤答例(・)と解説

<p>・(外様大名は、)江戸を囲むよう(に配置している。なぜなら、)攻撃されることから守る(ためである。)</p> <p>・(外様大名は、)日本の海沿い(に配置している。なぜなら、)反乱を起こさないようにする(ためである。)</p>	<p>・(外様大名は、)江戸から遠く(に配置している。なぜなら、)あまりかかわりがないようにする(ためである。)</p> <p>・(外様大名は、)江戸から遠く(に配置している。なぜなら、)敵が来てもそこで足止めができるようにした(ためである。)</p>	<p>・(外様大名は、)全国各地(に配置している。なぜなら、)反乱が起こらないか見張る(ためである。)</p> <p>・(外様大名は、)日本全体に(に配置している。なぜなら、)いつでも戦いに行ける(ためである。)</p>
<p>外様大名を配置した理由は記述することができているが、江戸から遠くに配置されたことを読み取ることができていない。</p>	<p>外様大名が江戸から遠くに配置されたことは読み取ることができているが、その理由を記述することができていない。</p>	<p>外様大名が江戸から遠くに配置されたことを読み取ることができておらず、その理由も記述することができていない。</p>

### ■ 設問5(2)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

#### 指導改善のポイント

児童が、江戸幕府が大名の配置を工夫した理由について説明することができるようになるためには、以下の授業例のように、資料から大名の配置の工夫を読み取り、それぞれの大名と徳川家の関係を基に大名の配置を工夫した理由について説明することができるように指導をすることが大切です。

① 地図から、大名の配置の工夫について読み取り、気づきを挙げる。

江戸幕府は、大名の配置をどのように工夫していますか。地図を見て、気づきを挙げましょう。

親藩、譜代、外様に分けて配置しています。

譜代大名は江戸の近くに多く集まっています。

外様大名は、江戸から遠いところに配置されています。どうしてかな。

譜代大名は、外様大名の近くに配置されています。どうしてだろう。

② 大名の配置を工夫した理由について説明する。

譜代大名や外様大名が地図のように配置されたのはなぜですか。大名を3つに分けたことを基に考えましょう。

譜代大名を江戸の近くに配置したのは、江戸幕府を守るためだと思います。

外様大名を江戸から遠いところに配置したのは、外国から攻めてきたときに守るためかな。

それぞれの大名と徳川家がどんな関係なのか読み取り、大名の配置の工夫を説明してみましょう。

外様大名は、関ヶ原の戦い以後に家来になったから、江戸幕府は信用していないんじゃないかな。

だから、江戸から遠いところに配置して、裏切っても、攻めて来られないようにしたんだね。

譜代大名を外様大名の近くに配置したのも、見張るためだね。徳川家は、江戸幕府を安定させるために、大名の配置を工夫したんだね。

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,110	74.1	2.9	78.8	58.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	身近な地域	4	66.6	1.5	80.0	60.0	
	地域の生産や販売	4	88.6	1.0	78.8	58.8	◎
	住みよいくらし	9	69.6	3.2	77.8	57.8	
	安全を守る	5	73.0	3.2	80.0	60.0	
	地域社会の歴史	4	78.4	5.0	78.8	58.8	
評価の観点	①思考・判断・表現	7	68.0	5.1	71.4	51.4	
	②技能	8	76.1	2.5	80.6	60.6	
	③知識・理解	11	76.4	1.7	82.3	62.3	
問題形式	選択式	11	79.7	1.4	81.4	61.4	
	短答式	9	70.8	2.8	80.6	60.6	
	記述式	6	68.8	5.7	71.7	51.7	
活用	「活用」に関する問題	5	66.9	4.5	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)ア 主な地図記号を理解している(田)	○						○			○		82.8	1.4	85	65		
1	(1)イ 主な地図記号を理解している(警察署)	○						○			○		62.5	1.4	85	65	▼	
1	(2) 地図から、必要な情報を読み取ることができる	○						○			○		70.0	0.7	80	60		
1	(3) 地図から必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することができる	○						○			○	○	51.2	2.5	70	50		
2	(1) 資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	○						○			○		89.5	0.3	85	65	◎	
2	(2) スーパーマーケットの集客の工夫を理解している	○						○			○		90.7	0.4	80	60	◎	
2	(3) 資料から、品物の産地を読み取ることができる	○						○			○		90.7	0.6	80	60	◎	
2	(4) 資料を基に、売れ残った商品の値段を下げる理由を説明することができる	○						○			○	○	83.5	2.9	70	50	◎	
3	(1) 資料から、人口の変化とごみの量の変化を読み取ることができる	○						○			○		87.3	1.5	80	60	◎	
3	(2) 資料を基に、ごみの出し方について考えることができる	○						○			○	○	63.4	1.7	70	50		
3	(3) 清掃工場の仕組みを理解している(プラットホーム・中央制御室)	○						○			○		69.5	2.2	85	65		
3	(4) 資料を基に、新しい最終処分場(処分場)を建設する際の問題点について説明することができる	○						○			○	○	59.5	8.4	70	50		
3	(5) 資料を基に、ごみを減らす工夫について考えることができる	○						○			○		71.5	6.3	75	55		
4	(1) 資料から、水の使い方と使用量を読み取ることができる	○						○			○		72.9	2.0	80	60		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	(2)	水道水が家や学校に送られるまでの流れを理解している	○					○				74.7	0.9	80	60		
4	(3)	森林の働きを読み取ることができる	○					○		○		54.1	4.8	80	60	▼	
4	(4)	安全で安心な水が家や学校に送られるまでの仕事について理解している	○					○		○		73.5	1.2	80	60		
5	(1)	交通事故が起こったときの連絡の仕組みを理解している		○				○		○		68.7	1.1	80	60		
5	(2)	交通事故が起こったときの警察の仕事を理解している		○				○		○		71.9	1.6	80	60		
5	(3)	人々の安全を守る警察の仕事を理解している		○				○		○		81.5	1.9	85	65		
5	(4)	資料を基に、地域の人が子どもの安全を守るために取り組んでいることについて考えることができる		○			○			○		70.1	6.9	75	55		
5	(5)	資料から、まちの安全を守るための地域の取り組みを読み取ることができる		○			○			○		73.0	4.3	80	60		
6	(1)	古くから残る暮らしに関わる道具を理解している(かまど)			○			○		○		95.3	2.8	85	65	◎	
6	(2)	昔の道具について調べたことを、カードにまとめることができる			○			○		○		71.4	5.9	80	60		
6	(3)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々の暮らしの変化について説明することができる			○		○			○	○	77.0	7.2	70	50	◎	
6	(4)	地域の祭りや行事について理解している			○			○		○		69.7	4.0	80	60		



令和元年度 佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]  
 設問別調査結果[社会] 5年  
 小学校一児童

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,461	68.5	2.3	79.3	59.3	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	県の様子(3・4年)	4	81.0	0.4	81.3	61.3	
	国土の様子	7	69.4	0.9	82.1	62.1	
	食料生産の様子	12	65.6	3.6	77.5	57.5	
	工業の様子	5	64.1	2.5	78.0	58.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	39.3	5.8	70.0	50.0	▼
	②技能	11	77.2	1.0	80.5	60.5	
	③知識・理解	12	72.6	1.9	82.1	62.1	
問題形式	選択式	15	78.7	0.6	81.7	61.7	
	短答式	8	67.7	3.2	80.6	60.6	
	記述式	5	39.3	5.8	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	39.3	5.8	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している	○				○		○			88.5	1.1	85	65	◎	
1	(2)①	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(佐賀平野)	○				○		○			84.4	0.3	80	60	◎	
1	(2)②	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(有明海)	○				○		○			79.2	0.2	80	60		
1	(3)	都道府県の名称と位置を理解している(石川県・静岡県)	○				○		○			72.1	0.2	80	60		
2	(1)	世界の国名と国旗を理解している(大韓民国・ブラジル)	○				○		○			85.5	0.1	85	65	◎	
2	(2)③	地図から、日本の南端の島を読み取ることができる(沖ノ島)	○				○		○			72.3	1.0	80	60		
2	(2)④	地図から、日本の周りの海を読み取ることができる(日本海)	○				○		○			85.5	1.0	80	60	◎	
2	(3)	日本が抱える領土問題を理解している(北方領土・竹島)	○				○		○			56.3	0.3	80	60	▼	
3	(1)	日本の地形の特色について理解している	○				○		○			67.4	0.2	85	65		
3	(2)	日本の気候の特色について理解している(梅雨)	○				○		○			64.4	2.9	85	65	▼	
3	(3)	資料から、気温と降水量を読み取ることができる	○				○		○			54.7	0.5	80	60	▼	
4	(1)	米づくりの仕事について理解している	○				○		○			88.4	0.2	85	65	◎	
4	(2)	品種改良を理解している	○				○		○			62.7	7.3	80	60		
4	(3)	資料から、農業で働く人数の変化について読み取ることができる	○				○		○			87.3	0.6	80	60	◎	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	十分達成		おおむね達成
4	(4)	資料を基に、農業機械の所有台数の変化に着目した質問を考えることができる			○						○	○	44.7	4.0	75	55	▼
4	(5)	資料を基に、給食で米粉が使われている目的について説明することができる			○						○	○	48.1	5.1	70	50	▼
5	(1)	資料から、水揚げ量の多い漁港や日本近海の海流を読み取ることができる			○					○			69.5	0.4	80	60	
5	(2)	資料から、魚の特性に合わせた漁法を読み取ることができる			○					○			93.2	0.3	85	65	◎
5	(3)	水揚げされた魚を新鮮なまま保存する工夫について理解している			○						○		80.0	1.6	80	60	◎
5	(4)	資料を基に、遠洋漁業の生産量が減ってきている理由を説明することができる			○						○	○	48.5	7.8	65	45	
6	(1)	トレーサビリティを理解している			○								79.4	0.6	80	60	
6	(2)	資料を基に、自給率が低下してきた理由について説明することができる			○						○	○	26.3	7.0	70	50	▼
6	(3)	地産地消を理解している			○						○		59.2	7.7	80	60	▼
7	(1)	自動車の生産過程を理解している			○								67.8	0.9	80	60	
7	(2)	資料から、自動車づくりの工夫を読み取ることができる			○						○		87.7	1.1	80	60	◎
7	(3)	資料から、自動車の国内生産台数や輸出台数、現地生産台数の推移を読み取ることができる			○						○		62.6	3.3	80	60	
7	(4)	資料を基に、自動車専用の船で輸送する理由について説明することができる			○						○	○	29.0	5.3	70	50	▼
7	(5)	資料から、環境にやさしい自動車づくりの工夫を読み取ることができる			○						○		73.3	2.1	80	60	

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,381	62.4	2.6	78.6	58.6	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	国土の様子(5年)	4	46.6	5.4	81.3	61.3	▼
	我が国の歴史	24	65.0	2.2	78.1	58.1	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	53.6	4.5	69.0	49.0	
	②技能	9	70.9	0.5	81.1	61.1	
	③知識・理解	14	60.0	3.3	80.4	60.4	▼
問題形式	選択式	17	64.8	0.3	80.6	60.6	
	短答式	5	56.9	8.7	81.0	61.0	▼
	記述式	6	60.0	4.0	70.8	50.8	
活用	「活用」に関する問題	5	53.6	4.5	69.0	49.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1) 資料から、我が国の位置を読み取ることができる	○			○		○			39.4	0.1	80	60	▼
1	(2) 沖ノ鳥島を理解している	○			○		○			54.0	9.2	80	60	▼
1	(3) 北方領土を理解している	○			○		○			49.5	11.8	80	60	▼
1	(4) 資料から、日本海側の気候の特色を読み取ることができる	○			○		○			43.6	0.5	85	65	▼
2	(1) 資料を基に、弥生時代の人々が食べ物を安定して手に入れることができた理由を説明することができる	○			○			○	○	52.5	3.5	70	50	
2	(2) 渡来人を理解している	○			○			○		58.5	6.4	80	60	▼
2	(3) 資料から、前方後円墳の分布や古墳の種類を読み取ることができる	○			○		○			89.4	0.2	80	60	◎
3	(1) 資料から、十七条の憲法が、役人が守るべきまじりであることを読み取ることができる	○			○		○			56.6	0.1	80	60	▼
3	(2) 日本の仏教の発展に貢献した人物が鑑真であることを理解している	○			○		○			77.2	0.1	80	60	
3	(3) 資料を基に、天皇の力が全国に及んだことについて説明することができる	○			○			○	○	39.4	6.8	65	45	▼
4	(1) 資料から、貴族と武士の生活の違いを読み取ることができる	○			○			○		92.0	1.6	80	60	◎
4	(2) 御恩と奉公を理解している	○			○		○			50.0	0.2	80	60	▼
4	(3) 元寇について理解している	○			○		○			71.6	0.3	80	60	
4	(4) 書院造を理解している	○			○			○		65.6	5.9	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		我が国の歴史 国土の様子（5年）			①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	十分達成	
5	(1) 織田信長が行った政策を理解している	○				○		○			86.4	0.1	80	60	◎
5	(2) 資料を基に、江戸幕府が行った大名配置の工夫について説明することができる	○				○			○	○	41.2	4.8	70	50	▼
5	(3) 鎖国を理解している	○					○	○			64.3	0.3	80	60	
5	(4) 資料から、江戸時代の農民の暮らしについて読み取ることができる	○				○		○			81.1	0.3	80	60	◎
5	(5) 江戸時代の文化や学問を表す資料を選ぶことができる	○				○		○			65.3	0.3	85	65	
6	(1) 明治時代が始まったときの出来事を理解している	○					○	○			52.8	0.3	80	60	▼
6	(2) 明治政府の政策を理解している	○					○	○			46.0	0.4	80	60	▼
6	(3) 福沢諭吉が著した書物が「学問のすすめ」であることを理解している	○					○		○		57.1	10.3	85	65	▼
6	(4) 自由民権運動を表す資料を選ぶことができる	○				○		○			79.1	0.5	80	60	
7	(1) 関税自主権がないことで日本製品が売れなかった理由を説明することができる	○				○			○	○	69.7	3.8	70	50	
7	(2) 治外法権（領事裁判権）をなくすために交渉した人物が薩摩宗光であることを理解している	○					○	○			61.2	0.7	80	60	
7	(3) 資料を基に、日露戦争後に人々が不満をもった理由を説明することができる	○				○			○	○	65.0	3.6	70	50	
8	(1) 満州事変以降の戦争の広がりを理解している	○					○	○			46.3	0.7	80	60	▼
8	(2) 資料から、戦時中の国民の生活の様子を読み取ることができる	○				○		○			91.8	0.7	80	60	◎

小学校算数（4年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 小数の加法の計算の基礎的な技能が身に付いている。 設問1(2)
- ◇ 分度器を用いて、180度より小さい角の大きさを求めることができています。 設問4(1)
- ◆ 長方形の辺と辺の垂直の関係、台形、平行四辺形についての理解に課題が見られる。 設問7(1)(3)
- ◆ 示された情報から判断した理由を説明したり、グラフを多面的に捉えメモの情報と折れ線グラフとを関連付けて考えたことを説明したりすることに課題が見られる。 設問6、9(2)

■ 特に課題が見られた設問9(2)の誤答例(・)と解説

<p>・12は、最高気温と最低気温のちがいを表しています。7も、最高気温と最低気温のちがいを表しています。</p>	<p>・12は、最高気温が12度で最低気温は3度です。7は、最高気温が31度で最低気温は24度です。</p>	<p>・12は、1番気温が大きいところです。7は、1番気温が小さいところです。</p>
<p>メモの情報が、最高気温と最低気温の差を表していることを説明することはできているが、何月の最高気温と最低気温の差を表しているのかを説明することができていない。</p>	<p>メモの情報と折れ線グラフとを関連付けて読み取ろうとしてはいるが、12や7を横軸の月と捉えており、メモの情報と折れ線グラフとを正しく関連付けて説明することができていない。</p>	<p>メモの情報をそのまま書いており、メモの情報と折れ線グラフとを関連付けて、最高気温と最低気温の差に着目して説明することができていない。</p>

■ 設問9(2)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**  
 児童が、グラフを多面的に捉えてメモの情報と折れ線グラフとを関連付けて考察することができるようになるためには、以下の授業例のように、グラフを複数の観点で読み取り、グラフと関連付けながら説明することができるように指導をすることが大切です。

月ごとの最高気温と最低気温の変わり方 (単位:度)

② どのような観点で読み取った数値なのかを、グラフと読み取ったことを関連付けながら説明する。

かずやさんがグラフから読み取ったことは、どのようなことか分かりますか。

かずやさんは、最高気温が最も高いのは8月の33度、最低気温が最も低いのは1月の1度ということを読み取ったのだと思います。

みさきさんは、グラフから読み取ったことを式に表していますね。どのようなことを読み取ったか、式や答えの数に注目して説明しましょう。

みさきさんが表している式は、気温のちがいを読み取っていると思いました。

みさきさんのメモの「26-14」の26と14はどのようなことを表しているのかグラフを使って説明できますか。

26は5月の最高気温、14は5月の最低気温で、5月の最高気温と最低気温の差を求めていると思います。

① グラフを複数の観点で読み取る。

このグラフから、どのようなことが分かりますか。

8月の最高気温は33度です。また8月の最低気温は、25度です。

4月は最高気温が20度ですが、6月と9月では最低気温が20度になっています。

折れ線グラフから、いろいろなことが読み取れますね。ほかにもグラフを読んで分かることを書き出しましょう。

小学校算数（5年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 展開図を組み立ててできる直方体の面の位置関係、合同な図形の対応する辺や角を理解することができている。 設問6(1)、8(1)(2)
- ◇ 立体の体積の求め方を考えることができている。 設問4(2)
- ◆ 小数の除法についての理解や展開図を組み立ててできる直方体の辺の位置関係の理解に課題が見られる。 設問3(1)、6(2)
- ◆ 日常の事象を数学的に解釈し筋道を立てて説明したり、グラフの特徴を基に筋道を立てて説明したりすることに課題が見られる。 設問13、15(2)

■ 特に課題が見られた設問15(2)の誤答例(・)

誤答例 1	誤答例 2	誤答例 3
<p>・1ぱんのツルレイシは、5日から6日までは3cm、6日から7日までは2cmのびています。イのぼうグラフは、5日から6日までは6cm、6日から7日までは7cmのびています。だから、イのぼうグラフは、1ぱんのツルレイシのくきが1日にのびた長さを表したぼうグラフではありません。</p>	<p>・1ぱんのツルレイシは、5日から6日までは3cm、6日から7日までは2cmのびています。イのぼうグラフでは、ツルレイシのくきが1日にのびた長さは1cmです。だからイのぼうグラフは、1ぱんのツルレイシのくきが1日にのびた長さを表したぼうグラフではありません。</p>	<p>・グラフ3の7月6日から7月7日ののび具合に対して、イのぼうグラフでは1cmしかのびていません。だからイのぼうグラフは、1ぱんのツルレイシのくきが1日にのびた長さを表したぼうグラフではありません。</p>
<p>折れ線グラフからツルレイシの茎が1日に伸びた長さを捉えることはできているが、一目盛りの大きさを正しく読み取ることができていない。</p>	<p>折れ線グラフからツルレイシの茎が伸びた長さを捉えることはできているが一目盛りの大きさや棒グラフが表していることを捉えることができていない。</p>	<p>グラフからツルレイシの茎が1日に伸びた長さを捉えようとしてはいるが、それがグラフのどの部分に当たるのかを捉えることができていない。</p>

■ 設問15(2)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

児童が、グラフの特徴を基に筋道を立てて説明することができるようになるためには、以下の授業例のように、グラフを複数の観点で読み取り、グラフとグラフとを関連付けて判断したことを説明することができるように指導をすることが大切です。

② 折れ線グラフと棒グラフとを関連付けて判断したことを説明する。

棒グラフは、1ぱんのツルレイシの茎が1日に伸びた長さを表しているといえますか。折れ線グラフから読み取って分かったことを基に考えましょう。

折れ線グラフからは、1ぱんのツルレイシは5日から6日にかけて6cm、6日から7日にかけて4cm伸びていることが分かりますね。

(児童の間違いを生かして)先生は、5日から6日にかけて3cm伸びていると考えましたがどうですか。

それは違うと思います。一目盛りは2cmです。

〇〇さんが説明したことは、グラフのどの部分を基にして考えているか説明できますか。

〇〇さんが説明したことは、折れ線グラフの○の部分のことを基に考えていると思います。

でも、棒グラフでは、5日から6日にかけて6cm、6日から7日にかけて7cm茎が伸びています。だから、棒グラフは、1ぱんのツルレイシの茎が1日に伸びた長さを表しているとはいえません。

① 折れ線グラフを複数の観点で読み取ったり、読み取ったことを基に別のグラフに表したりする。

折れ線グラフから、どのようなことが分かりますか。

7月3日は56cm、4日は59cmなどツルレイシの茎の長さが分かります。

茎の長さは、7月3日は56cmで4日は59cmだから、約3cm伸びたことが分かります。

〇〇さんが言ったことは、折れ線グラフのどの部分か説明することはできませんか。

〇〇さんが説明したことを、棒グラフに表しましょう。

小学校算数（6年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 被乗数と乗数が共に真分数の乗法、被除数が真分数で除数が仮分数の除法の計算の基礎的な技能が身に付いている。 設問1(3)(4)
- ◇ グラフから比例の関係を見いだしてコピーできる枚数を考えたり、示された情報から1か月に平均何冊本が借りられたのかを考えたりすることができている。 設問5(2)、8(1)
- ◆ 円の面積の求め方、比例の関係、等しい比についての理解に課題が見られる。 設問4(1)、5(1)、10(1)
- ◆ 示されたグラフを関連付けて割合を求め正しく表されたグラフを考えたり、三角形の角の大きさの和を基に五角形の五つの角の大きさの和の求め方を考えたりすることに課題が見られる。 設問8(2)、12

■ 特に課題が見られた設問8(2)の誤答例(・)と解説

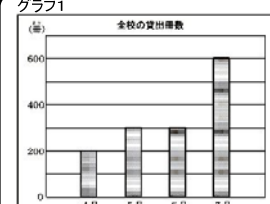
誤答例 1	誤答例 2	誤答例 3
<p>・アを選択している。</p>	<p>・イを選択している。</p>	<p>・エを選択している。</p>
<p>比べられる量(くらべる量)もとにする量を捉えて、正しく割合を求めることができていない。</p>	<p>グラフ3の棒グラフの棒の形を割合として捉えており、割合が比べられる量(くらべる量)÷もとにする量で求められることを理解することができていない。</p>	<p>グラフ2とグラフ3の棒グラフの大きさを積み重ねたグラフを割合のグラフと捉えており、割合を表すグラフを理解することができていない。</p>

■ 設問8(2)の誤答傾向を基にした指導改善ポイント

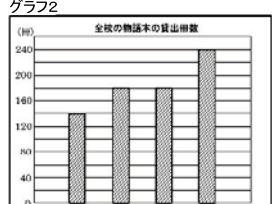
指導改善のポイント

児童が、示されたグラフに着目してそれらを関連付けて考え、問題を解決することができるようになるためには、以下の授業例のように、データから問題を見だし、判断したことを説明することができるように指導をすることが大切です。

**グラフ1** 全校の貸出冊数



**グラフ2** 全校の物語本の貸出冊数



**ア** 物語本の貸出冊数の割合  
全校の貸出冊数の割合

**イ** 物語本の貸出冊数の割合  
全校の貸出冊数の割合

**ウ** 物語本の貸出冊数の割合  
物語本以外の本の貸出冊数の割合

**エ** 物語本の貸出冊数の割合  
物語本以外の本の貸出冊数の割合

② 正しいグラフを判断して説明したり、他のグラフが、どうしてこのようなグラフになったのかを説明したりする。

① グラフとグラフを関連付けて考え、複数の観点で読み取ることを通して、問題を見いだす。

グラフ2の棒グラフからどのようなことがわかりますか。

物語本の貸出冊数が増えていることがわかります。

では、物語本の人気はだんだん高まっていると言っていいですね。

そうとは言えないと思います。グラフ1を見ると、全校の貸出冊数も増えているので人気が高まっているといえるかどうかはわかりません。

2つのグラフから物語本の人気が高まっているかどうかを調べることはできませんか。

全校の貸出冊数をもとにしたときの、全校の物語本の貸出冊数の割合を表したグラフは、どのグラフだと思いますか。

割合を求めると、4月は70%、5月と6月は60%、7月は、40%になりました。だから、ウだと思います。

どのようにして割合を求めたのですか。グラフや割合の単元で学習した言葉を使って説明しましょう。

割合は、比べられる量(くらべる量)÷もとにする量で求めることができます。比べられる量(くらべる量)は物語本の貸出冊数、もとにする量は全校の貸出冊数なので、4月の割合は、 $140 \div 200$ で求めることができます。

アとイのグラフは、誤ったグラフですね。どうしてこのようなグラフになったのか説明しましょう。

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,073	55.6	3.8	80.0	60.0	▼

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	8	56.7	3.9	80.0	60.0	▼
	量と測定	6	63.4	2.6	79.2	59.2	
	図形	6	46.2	3.3	81.7	61.7	▼
	数量関係	6	55.7	5.5	79.2	59.2	▼
評価の観点	①考え方	5	38.0	10.1	71.0	51.0	▼
	②技能	8	73.8	1.5	82.5	62.5	
	③知識・理解	13	51.2	2.8	81.9	61.9	▼
問題形式	選択式	10	55.3	1.6	82.0	62.0	▼
	短答式	14	60.3	3.8	80.4	60.4	▼
	記述式	2	24.4	15.0	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	3	23.4	13.3	68.3	48.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○				○			○			74.1	4.0	85	65		
1	(2) 1/10の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○			○			86.2	0.6	85	65	◎	
1	(3) 四則の混合した式を計算することができる			○		○			○			79.8	0.5	80	60		
2	(1) 兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○				○			○			62.1	1.9	80	60		
2	(2) 四捨五入について理解している	○				○			○			79.9	0.2	85	65		
2	(3) 小数の意味と表し方について理解している	○				○			○			52.3	0.8	80	60	▼	
3	(1) 除法の筆算の仕方を理解している	○				○			○			26.9	2.4	80	60	▼	
3	(2) 面積の感覚を身に付けている		○			○			○			37.7	1.5	80	60	▼	
4	(1) 分度器を用いて180度より小さい角の大きさを求めることができる	○				○			○			92.4	0.3	85	65	◎	
4	(2) 分度器を用いて180度より大きい角の大きさを求めることができる	○				○			○			69.3	0.6	80	60		
5	複合図形の面積の求め方を考えることができる	○				○			○			79.8	1.3	75	55	◎	
6	示された情報を基に、必要な数量を見だし、小道具を50個作ることができない理由を説明することができる	○				○			○	○		19.4	11.2	65	45	▼	
7	(1) 長方形の辺と辺の垂直の関係について理解している		○			○			○			31.5	1.5	85	65	▼	
7	(2) 直線の平行の関係について理解している		○			○			○			75.3	0.8	85	65		



設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係		① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				十 分 達 成	お お む ね 達 成	
7	(3) 台形	台形について理解している		○				○		○			37.0	1.0	85	65	▼	
7	(3) 平行四辺形	平行四辺形について理解している		○				○		○			42.2	1.1	80	60	▼	
7	(4)	円の半径と直径を理解している		○				○		○			70.1	5.4	85	65		
8	(1)	m <sup>2</sup> で表された面積をcm <sup>2</sup> で表すことができる	○					○		○			61.3	2.4	80	60		
8	(2)	□を用いて数量の関係を式に表すことができる		○				○		○			64.4	1.7	80	60		
8	(3)	分配法則について理解している		○				○		○			55.5	4.8	80	60	▼	
9	(1)	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる		○				○		○			62.7	1.7	85	65	▼	
9	(2)	メモの情報と折れ線グラフとを関連付けて、最高気温と最低気温の差に着目していることを説明することができる		○				○		○	○		29.4	18.8	70	50	▼	
9	(3)	折れ線グラフの特徴を理解している		○				○		○			42.6	5.4	80	60	▼	
10		台形が敷き詰められた図形の中から見いだした平行四辺形について説明することができる		○				○		○	○		21.2	9.9	70	50	▼	
11		示された情報を基に、図書館で過ごした時間を考えることができる	○					○		○			39.9	9.1	75	55	▼	
12		除法に関して成り立つ性質を理解している	○					○		○			53.1	10.0	80	60	▼	

令和元年度 佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]  
 設問別調査結果[算数] 5年  
 小学校一児童

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,430	65.4	3.0	80.2	60.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	9	67.1	3.2	80.6	60.6	
	量と測定	5	71.3	0.7	79.0	59.0	
	図形	7	60.0	3.2	79.3	59.3	
	数量関係	6	58.8	6.8	79.2	59.2	▼
評価の観点	①考え方	5	44.9	9.2	71.0	51.0	▼
	②技能	10	71.7	2.5	82.5	62.5	
	③知識・理解	11	68.9	0.7	82.3	62.3	
問題形式	選択式	11	65.8	0.8	80.5	60.5	
	短答式	13	71.0	2.4	81.9	61.9	
	記述式	2	26.3	19.5	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	35.3	11.3	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に小数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			82.3	0.2	85	65		
1	(2) 被除数、除数が共に小数の除法の計算をすることができる	○				○			○			82.8	0.4	85	65		
1	(3) 被除数が整数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○				○			○			76.0	1.4	85	65		
1	(4) 四則が混合し、( )を用いた式の計算をすることができる			○		○			○			80.6	0.6	80	60	◎	
2	(1) 小数の数の仕組みを理解している	○				○			○			88.4	0.3	85	65	◎	
2	(2) 最大公約数を求めることができる	○				○			○			72.1	3.9	85	65		
2	(3) 整数と小数の大小関係を理解している	○				○		○				69.3	0.3	85	65		
3	(1) 小数の除法について理解している	○				○			○			53.0	0.8	80	60	▼	
3	(2) 二つの数量の関係を口、△を用いて表すことができる			○		○			○			71.1	0.7	80	60		
4	(1) 立方体の体積を求めることができる	○				○			○			70.4	1.1	80	60		
4	(2) 立体の体積の求め方を考えることができる	○				○			○			83.5	0.8	75	55	◎	
5	(1) 単位量当たりの大きさを図と関連付けて理解している	○				○			○			66.4	0.3	80	60		
5	(2) 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している	○				○			○			41.5	0.5	80	60	▼	
6	(1) 展開図を組み立ててできる直方体の面の位置関係を理解している			○		○			○			90.7	0.4	85	65	◎	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				十 分 達 成	お お む ね 達 成	
6	(2)	展開図を組み立ててできる直方体の辺の位置関係を理解している		○			○		○			28.7	1.0	80	60	▼	
7		示された情報を解釈し、条件に合うグループの数とそれぞれのグループの男子と女子の人数を、筋道を立てて考えることができる	○				○		○	○	46.5	5.2	70	50	▼		
8	(1)	合同な図形の対応する辺を理解している		○			○		○		86.1	0.6	85	65	◎		
8	(2)	合同な図形の対応する角を理解している		○			○		○		85.7	0.6	85	65	◎		
9		測定値の平均を理解している	○				○		○		94.4	0.5	80	60	◎		
10		図形の特徴を的確に捉え、正方形の対角線の特徴を基に、円の直径を使って正方形をかくことができることを考えることができる		○			○		○	○	42.1	0.9	75	55	▼		
11		二つの観点から整理した表の合計欄に入る数を求めることができる		○			○		○		43.4	4.5	80	60	▼		
12		折れ線グラフの変化の特徴を読み取ることができる		○			○		○		83.1	0.9	85	65			
13		日常の事象を数学的に解釈し、本棚をいくつ並べることができるか、筋道を立てて説明することができる	○	○			○		○	○	33.3	16.3	65	45	▼		
14		合同な三角形をかくために必要な条件を理解している		○			○		○		53.1	2.4	80	60	▼		
15	(1)	ツルレイシの茎の長さの伸びを、棒グラフに表すことができる		○			○		○		55.5	11.4	80	60	▼		
15	(2)	グラフの特徴を基に2つのグラフが対応していないことを、筋道を立てて説明することができる		○			○		○	○	19.2	22.7	70	50	▼		

令和元年度 佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]  
 設問別調査結果[算数] 6年  
 小学校一児童

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,360	58.8	2.1	79.3	59.3	▼

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	7	73.5	1.0	82.9	62.9	
	量と測定	7	61.3	4.0	77.9	57.9	
	図形	7	51.4	2.3	78.6	58.6	▼
	数量関係	7	47.3	1.5	76.4	56.4	▼
評価の観点	①考え方	8	50.6	4.8	71.9	51.9	▼
	②技能	11	69.7	1.2	82.3	62.3	
	③知識・理解	8	51.9	0.7	82.5	62.5	▼
問題形式	選択式	9	53.6	1.0	78.9	58.9	▼
	短答式	16	65.0	1.4	80.6	60.6	
	記述式	2	32.1	13.0	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	35.7	7.6	68.8	48.8	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被除数が整数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○				○			○			78.7	1.2	85	65		
1	(2) 異分母分数の加法の計算をすることができる	○				○			○			79.3	0.8	85	65		
1	(3) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			86.8	1.6	85	65	◎	
1	(4) 被除数が真分数、除数が仮分数の除法の計算をすることができる	○				○			○			93.4	1.0	85	65	◎	
1	(5) 加法と乗法が混合した分数の計算をすることができる		○			○			○			42.2	1.5	85	65	▼	
2	(1) 問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	○				○			○			79.7	0.6	80	60		
2	(2) 1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	○					○		○			75.4	0.6	80	60		
3	問題と図を関連付けて、数量の関係を理解している	○					○		○			21.5	1.1	80	60	▼	
4	(1) 円の面積の求め方を理解している		○				○		○			55.8	0.3	80	60	▼	
4	(2) 円の面積を求めることができる		○				○		○			64.0	0.7	80	60		
4	(3) 円周を求めることができる			○			○		○			33.9	1.2	80	60	▼	
5	(1) 比例の関係を理解している			○			○		○			35.9	0.6	80	60	▼	
5	(2) グラフから比例の関係を見だし、6分間でコピーできる枚数を考えることができる			○		○			○			81.8	1.5	75	55	◎	
6	(1) 線対称な図形における対応する辺の位置関係を理解している			○			○		○			69.4	0.3	85	65		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係		① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				十 分 達 成	お お む ね 達 成	
6	(2)	点対称な図形における対応する点の位置関係を理解している		○				○		○			74.1	0.4	85	65		
7		三角柱の体積を求めることができる	○					○		○			69.3	1.2	80	60		
8	(1)	示された情報から、6年生が1か月に平均何冊本を借りたのかを考えることができる	○					○		○			76.0	1.1	75	55	◎	
8	(2)	示された情報から、全校の貸出冊数を基にしたときの、全校の物語本の貸出冊数の割合を表すグラフを考えることができる			○			○		○	○		29.6	1.4	65	45	▼	
9	(1)	速さと道のりから時間を求めることができる	○					○		○			70.5	1.9	80	60		
9	(2)	台形の面積を求めることができる	○					○		○			68.7	1.9	80	60		
10	(1)	等しい比について理解している			○			○		○			32.4	0.9	85	65	▼	
10	(2)	比の問題場面において、数量の関係を表す図を基に、部分の量を考えることができる			○			○		○			60.4	1.2	75	55		
11		日常の事象から、示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見いだし、その図形の特徴を考えることができる		○				○			○	○	39.2	5.2	70	50	▼	
12		三角形の角の大きさの和を基に、五角形の五つの角の大きさの和の求め方を考えることができる		○				○			○		43.5	4.3	75	55	▼	
13		合同な三角形をかくための、必要な条件を理解している		○				○		○			50.9	1.4	85	65	▼	
14		日常の事象から、比の考えを使って考える場面を見いだし、旗の下書きをかく長方形の紙の大きさと、下書きにかく円の大きさを考えることができる		○	○			○		○	○		49.0	3.2	70	50	▼	
15		示された情報を解釈し、往復の時速の求め方を筋道を立てて説明することができる	○					○			○	○	24.9	20.8	70	50	▼	

小学校理科（4年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

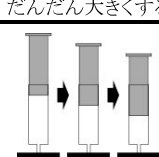
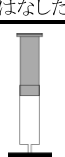
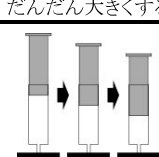
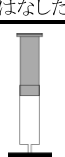
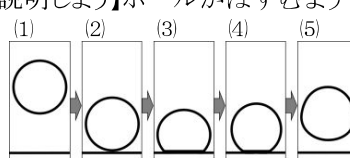
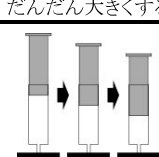
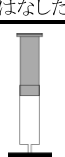
- ◇ 温度計や実験用ガスこんろなどを適切に使う技能が身に付いている。  
設問1(1)、4(1)、6(2)、9(1)、11(2)
- ◇ 鏡で反射させた日光を重ねるほど明るく暖くなることや、物は形を変えても重さは変わらないことなどを理解することができている。  
設問1(2)、2(1)、4(2)、5(2)
- ◆ より妥当な考えをつくりだすために、与えられた情報を基に分析して考察することに一部課題が見られる。  
設問6(3)、7(3)
- ◆ 閉じ込めた空気の性質をボールがはずむ仕組みに適用することに課題が見られる。  
設問7(4)

■ 特に課題が見られた設問7(4)の誤答例(・)と解説

<p>・ゴムボールの中の空気がおしちめられるからはねた。 ・地面に着いたとき、ゴムボールの中の空気の体積が小さくなって、上の方に行くからはずむ。</p>	<p>・ゴムボールの中の空気が、元の体積にもどろうとははずんだ。 ・ゴムボールの中の空気が、元にもどろうとははずんだ。</p>	<p>・ゴムボールの中の空気が、たくさん入っているからはねる。 ・ゴムボールの中の空気が少なかったら、はねないけど、多く入っていたら、はねる。</p>
<p>ゴムボールの中の空気が押し縮められることは記述できているが、元に戻ろうとすることは記述できていない。</p>	<p>ゴムボールの中の空気が元に戻ろうとすることは記述できているが、その前提となる押し縮められることは記述できていない。</p>	<p>ゴムボールを使った経験は想起できているが、空気は押し縮められると元に戻ろうとする性質と結び付けることができていない。</p>

■ 設問7(4)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**  
 児童が、自然の事物・現象の性質を実際の自然などに適用することができるようになるためには、以下の授業例のように、観察、実験の結果から言えることを正確に表現し、身近な事象の仕組みに当てはめて考えるような指導をすることが大切です。

<p><b>【結果】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">くわえた力</td> <td style="width: 33%;">だんだん大きくする</td> <td style="width: 33%;">手をはなしたあと</td> </tr> <tr> <td>せん的位置</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	くわえた力	だんだん大きくする	手をはなしたあと	せん的位置			<p><b>【説明しよう】ボールがはずむようす</b></p> 
くわえた力	だんだん大きくする	手をはなしたあと					
せん的位置							
<p>① 観察、実験の結果から言えることを正確に表現する。</p> <p>この【結果】から、どのようなことが言えますか。</p> <p>空気を閉じ込めて力を加えると、空気は小さくなります。</p> <p>「体積」という言葉を使った方が、この結果から言えることをより正確に表せますよ。</p> <p>そうですね。「空気を閉じ込めて力を加えると、空気の体積は小さくなる」の方が正確ですね。</p> <p>手を離れた後の様子を見ると、空気は体積が小さくなると、元に戻ろうとするということも言えると思います。</p>	<p>② 身近な事象の仕組みについて説明する。</p> <p>今日の学習を生かして、このボールが弾む様子を説明しましょう。</p> <p>ボールの中の空気の体積が小さくなることで弾むのだと思います。</p> <p>なるほど。3枚目の絵までは、それで説明ができますね。しかし、4～5枚目の絵について説明できていると言えますか。</p> <p>う～ん……そうか！体積の小さくなった空気が元に戻ろうとすることも関係しているのか！</p> <p>つまり、ボールの中の空気の体積が小さくなって、そこから元の体積に戻ろうとすることで弾むということですね。</p>						

小学校理科（5年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ より妥当な考えをつくりだすために、与えられた情報を基に分析して考察することができている。  
設問2(2)、8(1)
- ◇ 子葉の中の養分が発芽に使われることや、天気は雲量と関係していることなどを理解することができる。  
設問5(4)、6(2)、9(1)
- ◆ 金属の温まり方について、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通して実験を構想することに課題が見られる。  
設問1(2)
- ◆ 湯気は液体であることや、メダカの稚魚は腹の中にある養分で成長することなどを理解することに課題が見られる。  
設問2(3)、3(2)、8(3)②


■ 特に課題が見られた設問1(2)の誤答例(・)と解説

<p>・アを選択している。</p> <p>金属の温まり方に関する知識を基に考えており、太郎さんの予想を基に考えることができていない。</p>	<p>・イを選択している。</p> <p>太郎さんの予想を「左端から温まる」と捉えている。</p>	<p>・ウを選択している。</p> <p>太郎さんの予想を「熱源に向かって温まる」と捉えている。</p>
--	---	--

■ 設問1(2)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント（※「物の溶け方」で具体例を示しています。）

**指導改善のポイント**  
 児童が、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通して実験を構想することができるようになるためには、以下の授業例のように、予想と予想が得られた場合に得られる実験結果とを考えるような指導をすることが大切です。

**【学習問題】**  
 水に物をとかけた後の水よう液の重さは、どうなるだろうか。



① 根拠を基に予想を立てる。

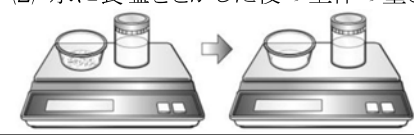
予想を立てましょう。これまでに学習したことや、経験したことなどを基に考えましょう。

料理をしたときに、塩を溶かしたら見えなくなりました。だから、水溶液の重さは、水に物を溶かす前より軽くなっていると思います。  
Aさん

ぼくは、水に物を溶かす前後で、重さは変わらないと思います。なぜなら、3年生のときに、粘土を使って、物は形を変えても重さが変わらないという学習をしたからです。  
Bさん

水に物を溶かしたら、重くなるのではないかと思います。理由は、水に物を溶かしたら、水の体積が大きくなっていてのを見たことがあるからです。  
Cさん

**【実験】**  
 (1) 水に食塩をとかす前の全体の重さを量る。  
 (2) 水に食塩をとかした後の全体の重さを量る。



② ほかの児童の予想に対し、どのような実験結果になれば、予想が確かめられたと言えるのかを表現する。

みなさんの予想が正しければ、どのような結果になりますか。自分とは違う予想をしている人の予想について説明しましょう。

Aさんの予想が正しければ…

溶かす前の全体の重さ	溶かした後の全体の重さ
105g	90gくらい

Bさんの予想が正しければ…

溶かす前の全体の重さ	溶かした後の全体の重さ
130g	130g

Cさんの予想が正しければ…

溶かす前の全体の重さ	溶かした後の全体の重さ
112g	120gくらい

では、実際に実験をして確かめてみましょう。

小学校理科（6年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 振り子の1往復する時間を調べる実験や、植物の成長と日光との関係について調べる実験を構想することができる。  
設問1(3)、2(1)(2)、6(1)、7(2)①
- ◇ より妥当な考えをつくりだすために、与えられた情報を基に分析して考察することができる。  
設問4(2)、7(2)②、8(4)
- ◆ 電磁石と永久磁石の共通点や、唾液のはたらきを調べる実験の結果などを理解することに課題が見られる。  
設問3(3)、5(1)(2)(2)
- ◆ より妥当な考えをつくりだすために、月の見える方位と形を分析して考察することに課題が見られる。  
設問8(2)

■ 特に課題が見られた設問8(2)の誤答例(・)と解説

<p>・イを選択している。</p> <p>月の見える方位と形を基に太陽の見える方位を考察できているが、時間を考察できていない。</p>	<p>・ウを選択している。</p> <p>月の見える方位と形を基に太陽の見える方位と時間を考察できていない。</p>	<p>・エを選択している。</p> <p>月の見える方位と形を基に考察できおらず、月が出ていることを基に時間を考察している。</p>
---	--	--

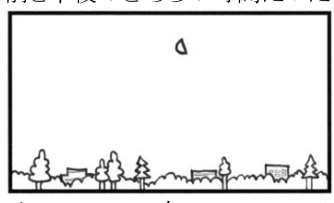
■ 設問8(2)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

児童が、より妥当な考えをつくりだすために、自然の事物・現象に関する情報を分析して考察できるようになるためには、以下の授業例のように、与えられた情報を整理し、整理した情報を基に考えたことについて妥当性を検討するような指導をすることが大切です。

(太陽と月の位置関係の学習後)

**【問題】**  
太陽は東と西のどちらに見えていたでしょうか。また、午前と午後のどちらの時間だったでしょうか。



**① 与えられた情報を整理する。**

今日の学習を生かすと、この【問題】を解くことができます。この図から分かることはどんなことですか。

月は半月で、南の空に見えています。

半月は、東側が輝いています。

月だけが記録されていて、太陽が記録されていません。

観察した日時が書かれていないので、分かりません。

では、この図から分かることを基に、この【問題】に対する自分の考えをノートに書きましょう。

**② 意見を出し合い、妥当性を検討する。**

自分の考えを発表してください。

月が出るのは夜なので、時間は午後だと思います。

なるほど。この考えについて、意見はありませんか。

月が夜に出るとは限らないので、午後とは言いつまらないのではないかと思います。

…そうですね。では、時間ではなく太陽の位置から考えてみます。でも、どうやったら太陽の位置が分かるのかな…。

今日学んだ「月の輝いている側にいつも太陽がある」ことから考えられると思います。つまり、太陽は東側にあるということになります。

なるほど。でも、太陽の位置が分かっても、時間は分からないですよね…。

3年生で学んだ太陽の一日の動きから、考えることができますか。

太陽は東から昇り南の空を通って西に沈むから…太陽は東にあるので、午前ですね！

つまり、太陽は東に見えていて、午前の時間だったということになりますね。



集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,102	71.4	1.6	77.7	57.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	15	65.7	1.6	76.0	56.0	
	生命・地球	11	79.3	1.5	80.0	60.0	
評価の観点	①思考・表現	9	58.6	1.6	71.1	51.1	
	②技能	8	81.9	0.7	81.3	61.3	◎
	③知識・理解	9	75.0	2.3	81.1	61.1	
問題形式	選択式	17	78.0	0.6	78.2	58.2	
	短答式	4	66.9	4.7	82.5	62.5	
	記述式	5	52.7	2.3	72.0	52.0	
活用	「活用」に関する問題	5	54.0	1.9	72.0	52.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球		①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 身近な生物の観察の適切な方法を身に付けている	○				○		○			94.4	0.1	80	60	◎	
1	(2) 動物のいる場所を理解している	○				○		○			94.7	0.1	80	60	◎	
1	(3) 昆虫を理解している	○				○		○			67.5	3.2	85	65		
2	(1) 鏡で反射させた日光を重ねるほど明るく暖かくなることを理解している	○				○		○			82.5	1.1	80	60	◎	
2	(2) 日光を集めるときの、虫眼鏡の適切な使い方を身に付けている	○				○		○			68.9	0.3	80	60		
3	より妥当な考えをつくりだすために、素材が不明な物に電気を通したり磁石を近づけたりして調べた結果を分析して考察することができる	○				○		○	○		67.6	0.9	70	50		
4	(1) はかりの適切な使い方を身に付けている	○				○		○			91.2	1.0	85	65	◎	
4	(2) 物は形を変えても重さは変わらないことを理解している	○				○		○			95.7	0.2	80	60	◎	
5	(1) 太陽の観察の安全な方法を身に付けている	○				○		○			77.8	1.7	80	60		
5	(2) 影は日光を遮る物があると太陽の反対側にできることを理解している	○				○		○			87.7	0.2	80	60	◎	
6	(1) 百葉箱を理解している	○				○		○			70.6	5.7	80	60		
6	(2) 温度計の適切な使い方を身に付けている	○				○		○			98.3	0.3	85	65	◎	
6	(3) より妥当な考えをつくりだすために、自記温度計(記録温度計)の記録を分析して考察することができる	○				○		○			42.8	1.0	70	50	▼	
7	(1) 空気の性質を利用したおもちゃの安全な使い方を身に付けている	○				○		○			51.2	0.3	80	60	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	十分達成	
7	(2)	閉じ込めた空気は、体積が小さくなるにつれて押し返す力が大きくなることを理解している	○				○		○			74.6	0.4	80	60	
7	(3)	より妥当な考えをつくりだすために、空気の性質と力を加える前後の体積変化とを関係付けながら、分析して考察することができる	○				○		○		○	26.9	0.6	75	55	▼
7	(4)	閉じ込めた空気の性質を、ボールがはずむ仕組みに適用することができる	○				○		○	○	○	30.4	4.2	70	50	▼
8	(1)	水を温めたときの体積変化について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができる	○				○		○			69.4	0.7	70	50	
8	(2)	実験結果から水を温めたときの体積変化について、より妥当な考えに改善することができる	○				○		○			83.5	0.7	70	50	◎
9	(1)	実験用ガスコンロの安全な使い方を身に付けている	○				○		○			92.7	0.8	80	60	◎
9	(2)	温度による金属の体積変化を、金属製の手すりにすぎ間があることに適用することができる	○				○		○	○	○	51.2	2.2	70	50	
10	(1)	簡易検流計（検流計）を理解している	○				○		○			38.2	8.8	80	60	▼
10	(2)	より妥当な考えをつくりだすために、検流計の針の指す向きと大きさを分析して考察することができる	○				○		○		○	61.3	2.4	70	50	
11	(1)	腕を伸ばしたときの筋肉の様子を理解している	○				○		○			63.4	1.2	85	65	▼
11	(2)	動物の体の動かし方の適切な調べ方を身に付けている	○				○		○			80.5	1.3	80	60	◎
11	(3)	より妥当な考えをつくりだすために、人の骨と他の動物の骨の様子とを関係付けながら、分析して考察することができる	○				○		○	○	○	94.1	1.7	75	55	◎

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,456	65.9	0.6	77.9	57.9	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	6	67.5	0.3	77.5	57.5	
	生命・地球	22	65.5	0.7	78.0	58.0	
評価の観点	①思考・表現	12	64.1	0.7	72.5	52.5	
	②技能	6	61.3	0.5	80.8	60.8	
	③知識・理解	10	71.0	0.5	82.5	62.5	
問題形式	選択式	19	66.6	0.3	78.7	58.7	
	短答式	5	71.5	0.8	79.0	59.0	
	記述式	4	55.6	1.6	72.5	52.5	
活用	「活用」に関する問題	4	62.4	0.8	71.3	51.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球		①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 実験用ガスコンロの安全な使い方を身に付けている	○				○		○			75.0	0.1	80	60		
1	(2) 金属の温まり方について、予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して実験を構想することができる	○				○		○			44.3	0.1	70	50	▼	
1	(3) 金属の温まり方を理解している	○					○	○			83.0	0.1	85	65		
2	(1) 水を沸騰させる実験の安全な方法を身に付けている	○				○		○			85.6	0.0	80	60	◎	
2	(2) より妥当な考えをつくりだすために、水を熱したときに水が減る現象と蒸発とを関係付けながら、分析して考察することができる	○				○			○		76.3	1.6	70	50	◎	
2	(3) 湯気は、液体であることを理解している	○					○	○			41.1	0.0	80	60	▼	
3	(1) 温度計の示す温度の適切な読み取り方を身に付けている	○				○		○			37.5	0.4	85	65	▼	
3	(2) 冬のカブトムシの様子を理解している	○					○	○			49.5	0.1	80	60	▼	
3	(3) 冬のヘチマとサクラの様子を理解している	○					○	○			70.2	0.2	85	65		
4	より妥当な考えをつくりだすために、蒸発と水の重さとの関係を調べる実験における複数の情報を関係付けながら、分析して考察することができる	○				○			○	○	49.4	0.8	70	50	▼	
5	(1) 空気が発芽の条件であるかどうかを調べる実験を構想することができる	○				○		○			71.1	0.2	75	55		
5	(2) 光が発芽の条件であるかどうかを調べる実験を構想することができる	○				○		○	○		72.7	0.2	75	55		
5	(3) より妥当な考えをつくりだすために、条件の異なる複数の実験を比較しながら、分析して考察することができる	○				○		○			65.1	0.3	75	55		
5	(4) 子葉の中の養分が発芽に使われることを理解している	○					○	○			89.8	0.1	85	65	◎	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		物質・エネルギー	生命・地球			① 思考・ 表現	② 技能	③ 知識・ 理解	選択 式	短答 式				記述 式	十分 達成	
6	(1)	植物の成長の条件を調べる実験を構想することができる	○						○			73.6	0.9	75	55	
6	(2)	肥料を与えたときのインゲンマメの成長の様子を理解している	○					○				85.1	0.2	85	65	◎
6	(3)	より妥当な考えをつくりだすために、植物の成長の条件と太陽の動きとを関係付けながら、分析して考察することができる	○					○		○		52.8	0.4	70	50	
7	(1)	アサガオのおしべを理解している	○					○				76.6	0.2	85	65	
7	(2)	顕微鏡の適切な使い方を身に付けている	○					○				60.9	0.2	80	60	
7	(3)	より妥当な考えをつくりだすために、結実の実験結果を基に分析して考察することができる	○					○				67.4	0.5	75	55	
8	(1)	より妥当な考えをつくりだすために、メダカを飼育している三つの図を比較しながら、分析して考察することができる	○					○				82.9	0.6	75	55	◎
8	(2)①	解剖顕微鏡の安全な使い方を身に付けている	○					○				76.1	1.1	80	60	
8	(2)②	解剖顕微鏡を使う手順を身に付けている	○					○				32.6	0.9	80	60	▼
8	(3)①	メダカの受精卵がふ化するまでの様子を理解している	○					○				68.8	0.8	80	60	
8	(3)②	メダカの稚魚は、腹の中にある養分で成長することを理解している	○					○		○		58.4	2.4	80	60	▼
9	(1)	天気は雲量と関係していることを理解している	○					○				87.6	1.2	80	60	◎
9	(2)	より妥当な考えをつくりだすために、雲画像やアメダスの雨量情報を分析して考察することができる	○					○				38.4	1.7	70	50	▼
10		流れる水の働きを三日月湖の形成過程に適用して考えることができる	○					○		○		74.7	1.6	70	50	◎

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,371	69.9	0.8	76.8	56.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物質・エネルギー	11	74.7	0.2	77.7	57.7	
	生命・地球	17	66.7	1.2	76.2	56.2	
評価の観点	①思考・表現	12	76.1	0.9	71.3	51.3	◎
	②技能	6	62.6	1.0	80.8	60.8	
	③知識・理解	10	66.7	0.6	81.0	61.0	
問題形式	選択式	17	67.0	0.1	76.8	56.8	
	短答式	5	73.9	1.3	79.0	59.0	
	記述式	6	74.5	2.4	75.0	55.0	
活用	「活用」に関する問題	4	67.5	1.8	70.0	50.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球		①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 薬品の安全な使い方を身に付けている	○				○			○		96.4	0.3	80	60	◎	
1	(2) 物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないことを理解している	○				○		○		67.4	0.0	80	60			
1	(3) 条件制御をしながら、溶け残りのミョウバンを溶かす実験を構想することができる	○				○		○	○	80.6	1.4	70	50	◎		
2	(1) 糸につるしたおもりの1往復する時間と振り子の長さとの関係について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができる	○				○		○		83.4	0.0	75	55	◎		
2	(2) 糸につるしたおもりの1往復する時間について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができる	○				○		○		87.2	0.1	70	50	◎		
2	(3) 振り子のおもりの重さを変えたときの実験の結果を理解している	○				○		○		61.4	0.1	80	60			
3	(1) 電流の向きが変わると、電磁石の極が変わることを理解している	○				○		○		90.1	0.1	85	65	◎		
3	(2) コイルの巻数と電磁石の強さとの関係を実験を構想することができる	○				○		○		64.8	0.3	75	55			
3	(3) 電磁石と永久磁石の共通点を理解している	○				○		○		52.5	0.1	80	60	▼		
4	(1) 気体の濃度を調べる器具の適切な使い方を身に付けている	○				○		○		53.7	0.1	85	65	▼		
4	(2) より妥当な考えをつくりだすために、物が燃える前後の酸素と二酸化炭素の割合とモデルとを関係付けながら、分析して考察することができる	○				○		○		84.2	0.1	75	55	◎		
5	(1)① 唾液の働きを調べる実験の適切な方法を身に付けている	○				○		○		65.3	2.9	80	60			
5	(1)② 唾液の働きを調べる実験の結果を理解している	○				○		○		43.7	0.3	80	60	▼		
5	(2) 小腸を理解している	○				○		○		57.8	0.3	80	60	▼		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球		①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	十分達成	
5	(3)	小腸で吸収された養分は、血液によって全身に運ばれることを理解している	○						○		60.6	1.2	80	60	
6	(1)	植物の成長と日光との関係について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができる	○					○			79.5	0.1	70	50	◎
6	(2)	実験結果から植物の成長と日光との関係について、より妥当な考えに改善することができる	○					○			87.0	0.1	70	50	◎
7	(1)	植物の茎の水の通り道を理解している	○					○			63.2	0.1	80	60	
7	(2)①	切り花が水を吸うことを基に、根がなくても水を吸い上げるのかを調べる実験を構想することができる	○						○	○	75.2	3.0	70	50	◎
7	(2)②	より妥当な考えをつくりだすために、根のない植物が水を取り入れる実験結果を基に分析して考察することができる	○						○	○	73.4	2.4	70	50	◎
7	(3)	顕微鏡の適切な使い方を身に付けている	○					○			58.4	0.2	80	60	▼
8	(1)	方位磁針の適切な使い方を身に付けている	○					○			38.5	0.2	80	60	▼
8	(2)	より妥当な考えをつくりだすために、月の見える方位と形を分析して考察することができる	○					○		○	40.6	0.3	70	50	▼
8	(3)	太陽と月の位置と月の見え方を調べる実験の適切な方法を身に付けている	○						○		63.2	2.5	80	60	
8	(4)	より妥当な考えをつくりだすために、太陽と月の位置関係を分析して考察することができる	○					○			84.0	0.3	70	50	◎
8	(5)	月の表面にはクレーターがあることを理解している	○					○			88.2	2.3	85	65	◎
9	(1)	生物の間には、食う食われるという関係があり、元をたどると植物に行き着くことを理解している	○					○			82.5	1.3	80	60	◎
9	(2)	植物は日光が当たると二酸化炭素を取り入れて酸素を出すことを、動物や植物の呼吸で酸素が無くなることに適用することができる	○						○		73.6	3.1	70	50	◎

中学校国語（1年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 必要に応じて質問をしたり、相手の発言を聞いて自分の考えをまとめたりすることができている。 設問1三五
- ◇ 語句を的確に用いて書くことができている。 設問2一4
- ◆ 叙述の仕方を確かめて、適切に書き換えることに課題が見られる。 設問2一2
- ◆ 段落相互の関係を捉えたり、文章の展開に即して内容を捉えたりすることに課題が見られる。 設問3三四

■ 特に課題が見られた設問3四の誤答例(・)と解説

<p>・水冷式で、脳があまり熱くならないので、長く眠らなくても脳を冷やすせるから。</p> <p>・水の中で生活しているのだから、それだけで十分脳が冷やされるから。</p>	<p>・クジラやイルカは、有利なのは水の中で、もともと水冷式だから。</p> <p>・クジラやイルカは水冷式で、あまり脳を使わないから。</p>	<p>・クジラやイルカは、ときどき半球ずつ眠っているから。</p> <p>・鳥は脳が小さいので、眠らなくてもいいから。</p>
<p>水で脳を冷やすことができるので、たくさん眠らなくてもよいということを捉えることはできているが、主語を入れて書くという条件を満たしていない。</p>	<p>クジラやイルカが水冷式であるということ捉えることはできているが、水で脳を冷やすことができるということ捉えることができていない。</p>	<p>文章の展開に即して、「クジラやイルカは水の中で生活しているのだから、水で脳を冷やすことができる」という内容を捉えることができていない。</p>

■ 設問3四の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**  
 生徒が、文章の展開に即して内容を捉えることができるようになるためには、以下の授業例のように、各段落の要点を捉えたり、段落のつながりを考えたりするような指導をすることが大切です。

**① 文章を読んで、各段落の要点を捉える。**

筆者は、「たぶんそんなにたくさん眠らなくてもいいのだらうと思います」と述べていますが、なぜそのように考えたのでしょうか。その根拠を捉えるために、段落ごとの要点を確認してみましょう。

**①・②**段落では、脳が大量のエネルギーを消費する発熱器官だということを述べています。

**③**段落には、脳は発熱器官だから、睡眠をとることによって冷やすことが必要だということが書かれています。

**④**段落には、「泳ぎ続けるクジラやイルカ、飛び続ける渡り鳥は、どうやって眠るのか」という疑問が書かれています。

**⑤**段落には、イルカが大腦半球を半分ずつ眠らせるということが書かれています。

**⑥**段落では、クジラやイルカが水冷式だから有利だということが述べられています。

① 脳は発熱器官

② 睡眠によって脳を冷やすことが必要

③ イルカやクジラは どうやって眠る？

④ イルカは、脳を半分ずつ眠らせる

⑤ クジラやイルカは 水冷式で有利

←

たぶんそんなにたくさん眠らなくてもいいのだらう

**② どの段落が筆者の考えの根拠になっているのかを捉え、まとめる。**

筆者の考えの根拠が述べられているのは何段落ですか。

⑥段落です。

そうですね。では、「筆者の考えの根拠は、」という書き出しで、根拠をノートにまとめてみましょう。

筆者の考えの根拠は、クジラやイルカは水の中にすんでいるので、水で脳が冷やされるということです。

中学校国語（2年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 目的に沿った話し合いになるように適切に意見を述べたり、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話したりすることができている。 設問1 二五
- ◇ 書いた文章を読み合い、自分の表現に役立てることができている。 設問2 六
- ◆ 単語の類別を理解することに課題が見られる。 設問4 二
- ◆ 表現の仕方について自分の考えをもつことに課題が見られる。 設問4 五

■ 特に課題が見られた設問4五の誤答例(・)と解説

<p>・「ほっとして」は、( 原稿を読み終えたこと )に対して、「深く安堵の息を吐き」は、( みさとが手を向けたこと )に対して安心したという気持ちを表していると思います。</p>	<p>・「ほっとして」は、( 自分 )に対して、「深く安堵の息を吐き」は、( 自分の言葉が伝わったこと )に対して安心したという気持ちを表していると思います。</p>	<p>・「ほっとして」は、( 緊張 )に対して、「深く安堵の息を吐き」は、( とても緊張したこと )に対して安心したという気持ちを表していると思います。</p>
<p>「ほっとして」が原稿を読み終えたことに対する気持ちであるということは書けているが、「深く安堵の息を吐き」がみさとの言葉が伝わったことに対する気持ちであるということが書けていない。</p>	<p>「深く安堵の息を吐き」がみさとの言葉が伝わったことに対する気持ちであるということは書けているが、「ほっとして」が原稿を読み終えたことに対する気持ちであるということが書けていない。</p>	<p>「ほっとして」が原稿を読み終えたことに対する気持ちであるということ、「深く安堵の息を吐き」がみさとの言葉が伝わったことに対する気持ちであるということ、そのどちらも書けていない。</p>

■ 設問4五の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**

生徒が、表現の仕方について自分の考えをもつことができるようになるためには、以下の授業例のように、表現を比較して共通点や相違点を捉えたり、自分の考えを伝え合ったりするような指導をすることが大切です。

**① 文章を読んで、心情を表す表現を探す。**

文章を読んで、みさとの心情を表す表現に線を引いてみましょう。

原稿を読み始めたばかりの時は、「肩に手がのるのを感じた」とあるな。読んでいる途中は、「夢中で読む」で……。

安心した対象が違うということは分かりますが、安心したという気持ちを表すだけなら、同じ表現でもいいのではないですか。

みさとは自分の言葉を伝えようと思って原稿を読んだので、言葉が伝わったと感じたときの安心の方が、原稿を読み終えたときよりも強かったということを表現しているのではないのでしょうか。

**② 心情を表す表現を比較して、どのような違いがあるのか、なぜそのような表現をしたのか話し合う。**

皆さんが見付けた心情を表す表現の中で、「ほっとして会場を見渡す」、「深く安堵の息を吐き」という表現を比較してみましょう。どのような共通点、相違点があるのか、なぜそのような表現をしたのか、グループで話し合ってください。

「ほっとして」も「安堵」も安心する気持ちを表すところは共通していると思います。でも、「安堵」という言葉の方が、安心したという気持ちが強い気がします。

「ほっとした」のは原稿を読み終えたときで、「安堵」は自分の言葉が伝わったときという違いがあるから書き分けたのではないですか。

**③ グループで出た意見を全体で共有する。**

安心の気持ちを表す点は共通していますが、「安堵」の方が、安心の気持ちが強いと考えました。

私たちの班は、みさとが自分の言葉が伝わったと感じた時の安心の方がより強かったことを表現するために、表現を書き分けたと考えました。

「ほっとして」と「安堵」	共通点	相違点	←	自分の言葉が伝わったと感じた時の安心の方が、より強かったことを表現している	
	○安心したという気持ちを表す	○安心した対象が違う	○安心の度合いが違う		



集計結果 ※「◎」は「十分達成」, 「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,940	67.4	3.9	70.5	50.5	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.2	1.8	69.0	49.0	◎
	書く	5	60.5	4.4	69.0	49.0	
	読む	5	51.9	4.4	69.0	49.0	
	漢字の読み	5	87.8	2.5	73.0	53.0	◎
	漢字の書き	5	72.6	7.4	71.0	51.0	◎
	語句に関する知識	6	61.4	3.2	71.7	51.7	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.2	1.8	69.0	49.0	◎
	②書く	5	60.5	4.4	69.0	49.0	
	③読む	5	51.9	4.4	69.0	49.0	
	④知識・理解・技能	16	73.1	4.3	71.9	51.9	◎
問題形式	選択式	13	65.3	1.3	71.9	51.9	
	短答式	14	75.3	4.6	72.1	52.1	◎
	記述式	4	46.4	10.1	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	3	49.6	10.8	56.7	36.7	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		十分達成
1	一	話をしっかりと聞き、整理する	○					○				○			64.3	0.2	75	55	
1	二	話合いの話題や方向を捉えて司会の役割を果たす	○					○				○			63.4	0.3	75	55	
1	三	必要に応じて質問をする	○					○				○			83.7	0.2	70	50	◎
1	四	相手に分かりやすい語句を選択して話す	○					○				○			82.6	0.3	70	50	◎
1	五	相手の発言を聞いて自分の考えをまとめる	○					○				○	○		62.2	7.9	55	35	◎
2	一	集めた材料を目的に応じて整理する	○					○				○			61.6	1.5	70	50	
2	一	二 叙述の仕方を確かめて、適切に書き換える	○					○				○			36.8	7.9	70	50	▼
2	一	三 ア 文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「親しまれ」			○				○			○			73.7	11.4	70	50	◎
2	一	三 イ 文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「厚く」			○				○			○			78.6	4.6	70	50	◎
2	一	三 ウ 文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「減らず」			○				○			○			88.3	3.2	70	50	◎
2	一	四 語句を的確に用いる	○					○				○			71.4	1.9	70	50	◎
2	二	伝えたい事実が明確になるように書く	○					○				○	○		59.5	9.9	60	40	
2	三	目的に応じて書く材料を集める	○					○				○			73.4	1.0	75	55	
3	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「絶えず」		○					○			○			95.2	1.9	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分ける	○					○			○			48.9	2.4	75	55	▼
3	三	段落相互の関係を捉える	○					○			○			44.0	1.7	70	50	▼
3	四	文章の展開に即して内容を捉える	○					○			○	○		27.1	14.6	55	35	▼
4	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「告げた」		○					○		○			94.1	1.9	75	55	◎
4	二	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	○					○			○			66.6	1.4	75	55	
4	三	文節の区切りを理解する				○			○		○			37.6	1.4	70	50	▼
4	四	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する	○					○			○			73.1	2.0	70	50	◎
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「沿岸」		○					○		○			79.0	3.6	70	50	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「志す」		○					○		○			85.5	2.1	75	55	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「究極」		○					○		○			85.0	2.8	70	50	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「危険」			○				○		○			66.7	6.2	70	50	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「郵便」			○				○		○			55.5	11.6	75	55	
5	三	文脈の中で語句を正しく使う				○			○		○			62.4	1.5	70	50	
5	四	文字と紙面の調和を考えて楷書で書く				○			○		○			87.2	1.6	75	55	◎
5	五1	歴史的仮名遣いについて理解する				○			○		○			61.1	4.6	75	55	
5	五2	古文のおおよその内容を理解する				○			○		○			71.2	6.1	70	50	◎
5	五3	文語のきまりを踏まえて古文を読み、古典の世界に触れる				○			○		○			48.8	4.1	70	50	▼

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,662	68.7	5.4	69.7	49.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	81.7	1.2	69.0	49.0	◎
	書く	5	53.8	4.7	65.0	45.0	
	読む	5	65.2	7.6	67.0	47.0	
	漢字の読み	5	83.4	4.0	73.0	53.0	◎
	漢字の書き	5	63.7	11.9	73.0	53.0	
	語句に関する知識	6	65.0	3.6	70.8	50.8	
評価の観点	①話す・聞く	5	81.7	1.2	69.0	49.0	◎
	②書く	5	53.8	4.7	65.0	45.0	
	③読む	5	65.2	7.6	67.0	47.0	
	④知識・理解・技能	16	70.3	6.3	72.2	52.2	
問題形式	選択式	14	67.9	1.5	70.4	50.4	
	短答式	13	74.3	8.1	73.1	53.1	◎
	記述式	4	53.1	10.6	56.3	36.3	
活用	「活用」に関する問題	3	48.8	10.4	55.0	35.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	一	話の論理的な構成や展開に注意して聞く	○					○				○			89.6	0.3	70	50	◎
1	二	目的に沿った話し合いになるように適切に意見を述べる	○					○				○		90.3	0.3	75	55	◎	
1	三	話の材料を多様な方法で集める	○					○				○		74.1	0.4	75	55		
1	四	資料を効果的に活用して話す	○					○				○		87.2	0.9	70	50	◎	
1	五	話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す	○					○				○	○	67.4	4.0	55	35	◎	
2	一	多様な方法によって材料を収集する	○					○						30.2	0.6	70	50	▼	
2	二	文章の構成を工夫して書く	○					○						55.0	0.7	70	50		
2	三	書いた文章を読み返し、分かりやすい文章にする	○					○						68.8	0.9	70	50		
2	四	具体例を加えて、分かりやすく伝える	○					○				○	○	48.9	9.8	55	35		
2	五ア	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「効率」			○				○					78.3	6.2	75	55	◎	
2	五イ	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「仮定」			○				○					68.4	7.4	75	55		
2	五ウ	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「防ぐ」			○				○					91.8	5.4	75	55	◎	
2	六	書いた文章を読み合い、自分の表現に役立てる	○					○				○		65.9	11.3	60	40	◎	
3	一	抽象的な概念を表す語句に注意して読む		○					○					87.6	1.0	70	50	◎	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き	漢字の読み	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能				選択式	短答式	
3	二	例示の効果を考え、内容を理解する		○					○				66.5	1.7	70	50	
4	一ア	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「響く」		○					○				97.1	2.0	75	55	◎
4	一イ	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「快い」		○					○				59.6	7.7	75	55	
4	一ウ	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「盛り」		○					○				96.5	2.1	75	55	◎
4	二	単語の類別について理解する				○			○				28.3	2.2	70	50	▼
4	三	描写の効果を考え、内容を理解する		○					○				74.3	2.2	70	50	◎
4	四	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する		○					○				67.3	15.5	70	50	
4	五	表現の仕方について自分の考えをもつ		○					○		○	○	30.2	17.4	55	35	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「威勢」		○					○				92.9	2.8	70	50	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「継承」		○					○				70.8	5.6	70	50	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「尋ねる」			○				○				31.5	16.5	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「隠さず」			○				○				48.6	24.0	70	50	▼
5	三	文脈の中で語句を正しく使う(同訓異字)				○			○				84.8	1.5	70	50	◎
5	四	目的に応じて、適切な書体や筆記具を選んで書く				○			○				41.9	2.3	65	45	▼
5	五1	歴史的仮名遣いについて理解する				○			○				83.7	4.4	75	55	◎
5	五2	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える				○			○				79.0	5.9	75	55	◎
5	五3	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の 思いを想像する				○			○				72.0	5.2	70	50	◎

中学校社会（1年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 地理的分野において、緯度0度の緯線が赤道であることや、サハラ砂漠の位置と名称について理解することができている。  
設問1(3)、3(1)①
- ◇ 地理的分野において、地図帳の索引を用いて都市の位置を読み取る技能、資料からヨーロッパの宗教と言語の分布の関連を読み取る技能が身に付いている。  
設問1(5)、3(2)①
- ◆ 歴史的分野において、社会的事象についての理解に一部課題が見られる。  
設問4(1)(3)、5(3)(5)、6(3)(4)
- ◆ 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することに課題が見られる。  
設問3(1)③、5(4)、6(5)

■ 特に課題が見られた設問3(1)③の誤答例(・)と解説

<p>・ナイジェリアは、モノカルチャー経済の国だから。</p>	<p>・年によって原油価格が大きく変わっているから。</p>	<p>・輸出品である原油の割合が年によって多くなったり少なくなったりしているため。</p>
<p>既習の学習内容のみで記述しており資料を基に、輸出品目の中で原油が多く占めていること、原油価格が年により変動していることについて説明できていない。</p>	<p>資料を基に、原油価格が年により変動していることについて読み取ることができているが、輸出品目の中で原油が多く占めていることについて説明できていない。</p>	<p>資料を基に、輸出品目の原油の割合のみを読み取っており、輸出品目の中で原油が多く占めていることや、原油価格が年により変動していることについて説明できていない。</p>

■ 設問3(1)③の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**  
生徒が、資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間の関連を説明することができるようになるためには、以下の授業例のように、複数の資料からそれぞれ情報を読み取らせた後、資料から読み取った情報を関連付けて考えるような指導をすることが大切です。

<p>資料1 ナイジェリアの輸出額の推移 (10億米ドル) 2005 2010 2015 (年)</p>	<p>資料2 ナイジェリアの輸出品目 その他 6.3% 2009年 原油 88.0% 2010年 76.0% 9.9 14.1 2015年 77.0% 15.0 8.8</p>	<p>資料3 原油価格の推移 (米ドル/バレル) 2005 2010 2015 (年)</p>	<p>3つの資料を関連付けて、ナイジェリアの経済の特色について考えていきましょう。まず、資料1と資料2を関連付けて考えると、どのようなことが言えますか。</p>
<p>① 資料から情報を読み取る。</p>	<p>ナイジェリアについて、資料1、資料2、資料3からそれぞれどのようなことがわかりますか。</p>	<p>資料2 から、ナイジェリアは、原油の輸出に頼っているモノカルチャー経済の国だと考えられるので、資料1 の輸出額の多くは、原油の輸出額だと考えられます。</p>	<p>資料1 と 資料3 を関連付けて考えると、どのようなことが言えますか。</p>
<p>資料1 からは、年々、ナイジェリアの輸出額が変化していることがわかります。</p>	<p>資料2 からは、ナイジェリアの輸出品目の中で原油が多くの割合を占めていることがわかります。</p>	<p>資料1 と 資料3 の折れ線グラフの形がほぼ同じで、原油価格が輸出額に大きな影響を与えていると考えられます。</p>	<p>では、3つの資料を関連付けて考えると、ナイジェリアの経済にはどのような特色があると言えますか。ノート(ワークシート)にまとめてみましょう。</p>
<p>資料3 からは、年々、原油価格が変化していることがわかります。</p>	<p>② 資料から読み取った情報を関連付けて考えられることをまとめる。</p>	<p>ナイジェリアは、原油の輸出に頼っているモノカルチャー経済の国なので、原油価格が変化すると、ナイジェリアの輸出額にも影響が出てしまうという特色があります。</p>	

## 中学校社会（2年生）

### ■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 地理的分野において、南アメリカ州でかつてインカ帝国が栄えたことや16世紀以降にキリスト教が広がったことについて理解することができている。  
設問1(2)①A①B
- ◇ 資料から適切な情報を読み取る技能が身に付いている。  
設問2(1)②、3(4)②、6(2)
- ◆ 歴史的分野において、社会的事象に関する知識を理解することに一部課題が見られる。  
設問4(2)、5(3)(4)(5)、6(3)①
- ◆ 歴史的分野において、資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明したり、社会的事象の意味や意義を解釈して説明したりすることに課題が見られる。  
設問4(5)、6(3)③

### ■ 特に課題が見られた設問4(5)の誤答例(・)と解説

<p>・牛や馬を使った。1つの田で米以外にも小麦や大麦、そばなどの作物を作ることができたりしたから。</p>	<p>・牛馬耕で農作業の効率が良くなったから。</p>	<p>・同じ田で米以外にもいろいろな種をまいて作物を作ったりすることができたから。</p>
<p>牛や馬を使ったことは書いているが、それにより農作業の効率が良くなり、生産力が高まったことについて説明することができていない。</p>	<p>牛や馬を使った耕作が行われ、効率が良くなったことについて読み取ることはできているが、1つの田で米以外の作物の種をまいたことについて説明することができていない。</p>	<p>1つの田で米以外にも、様々な種をまき、作物を作ったことについて読み取ることはできているが、牛を使った耕作によって、効率が良くなったことについて説明することができていない。</p>

### ■ 設問4(5)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

#### 指導改善のポイント

生徒が、資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間の関連を説明したり、社会的事象の意味や意義を解釈して説明したりすることができるようになるためには、以下の授業例のように、資料を読み解くための視点を示し、それを基にまとめるような指導をすることが大切です。

<p>① 現在との相違点や共通点に着目し、説明する。</p>	<p>② 教科書等で調べ、解釈して説明する。</p>
<p>「月次風俗図屏風」は鎌倉時代から室町時代の農業の様子を表しています。今の農業の様子と違うところはどのようなところですか。</p>	<p>この他にも、鎌倉時代から室町時代にはどのような農業技術が広がったのかを教科書や資料集を使って調べて、その農業技術が取り入れられたことによる効果を考えて説明しましょう。</p>
<p>今の農業は、耕うん機やトラクターなどの機械を使って田を耕していますが、鎌倉時代から室町時代の農業では、牛が田を耕しています。</p>	<p>稲の品種増加、かんがい、肥料が広がったと書いてあったよ。</p>
<p>そうですね。では、機械を使うことと牛を使うことの二つに共通していることはどのようなことですか。</p>	<p>今も行われている農業技術ばかりだね。これらによって一つの田からたくさん米がとれるようになったんじゃないかな。</p>
<p>人の力以外の力を使っているということです。</p>	<p>そうだね。他にも、一つの田で春から秋にかけて米を作り、秋から春にかけて麦をつくる二毛作も広がったみたいだよ。</p>
<p>なぜ人の力以外の力を使っているのでしょうか。</p>	<p>なるほど。一つの田で米がたくさんとれるようになっただけでなく、麦もとれるようになったんだね。</p>
<p>人の力で耕すよりも強い力で深く耕したり、より少ない時間で耕したりできるという点で、効率よく耕すことができるからです。</p>	<p>③ ①と②で学習したことを、キーワードを使いまとめる。</p>
<p>そうですね。今の農業でも機械を使った効率のよい農業技術が広がっているように、鎌倉時代から室町時代にかけて牛を使った農業技術が広がりました。</p>	<p>鎌倉時代から室町時代の農業の変化について、みなさんが考えたことを基に「農業の生産力」というキーワードを使って、まとめてみましょう。</p>
	<p>鎌倉時代から室町時代にかけて、牛を使って効率よく耕したり、一つの田でたくさんの農作物をとる工夫をしたりしたことで、農業の生産力が高まったということが出来ます。</p>

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,990	58.2	5.6	69.8	49.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の地域構成	5	64.8	1.8	73.0	53.0	
	世界の生活と環境	5	59.2	1.6	68.0	48.0	
	世界の諸地域	5	65.7	7.2	68.0	48.0	
	歴史の捉え方	5	58.6	4.9	71.0	51.0	
	古代	10	50.4	8.9	69.5	49.5	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	42.7	10.2	60.0	40.0	
	②技能	6	61.0	0.8	70.0	50.0	
	③知識・理解	19	61.4	5.8	72.4	52.4	
問題形式	選択式	12	59.1	0.8	70.4	50.4	
	短答式	13	63.3	8.1	73.1	53.1	
	記述式	5	42.7	10.2	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	5	42.7	10.2	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) オセアニア州の位置と名称を理解している	○						○			○			63.1	2.5	75	55	
1	(2) 資料に示された地点の緯度と経度を読み取ることができる	○						○			○			40.1	0.4	70	50	▼
1	(3) 緯度0度の緯線が赤道であることを理解している	○						○			○			79.5	2.4	75	55	◎
1	(4) 人口が多い国の一つであるインドを理解している	○						○			○			56.7	3.5	75	55	
1	(5) 地図の索引を用いて、ラバースとサンパウロの二つの都市の位置を読み取ることができる	○						○			○			84.9	0.4	70	50	◎
2	(1) 乾燥帯の気候の特徴を理解している	○						○			○			64.1	0.4	70	50	
2	(2) 資料から、アルゼンチンの都市の雨温図を読み取ることができる	○						○			○			37.6	0.6	70	50	▼
2	(3) 冷帯(亜寒帯)の地域に見られる住居の工夫について理解している	○						○			○			68.6	0.6	70	50	
2	(4) 資料を基に、中国の南東部地域で米を主な食べ物(主食)としている理由を説明することができる	○						○			○	○		59.1	5.6	60	40	
2	(5) 資料から、イスラム教の服装とイスラム教を信仰している地域を読み取ることができる	○						○			○			66.5	0.9	70	50	
3	(1)① サハラ砂漠の位置と名称を理解している	○						○			○			90.0	3.6	75	55	◎
3	(1)② アフリカの歴史的な特徴を理解している	○						○			○			69.8	9.5	75	55	
3	(1)③ 資料を基に、ナイジェリアの輸出額が年によって大きく変化している理由を説明することができる	○						○			○	○		30.4	11.0	60	40	▼
3	(2)① 資料から、ヨーロッパの宗教と言語の分布の関連を読み取ることができる	○						○			○			78.8	0.9	70	50	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	(2)②	資料を基に、外国人労働者の移動が一部の国に集中している理由を説明することができる	○								○	○	59.5	11.2	60	40	
4	(1)	イエス・キリストが生まれたとされる年を基準とした年代の表し方が、「西暦（西暦年）」であることを理解している		○				○			○		44.1	13.5	70	50	▼
4	(2)	「世紀」を使った年代の表し方を理解している		○				○					57.2	2.9	70	50	
4	(3)	社会の仕組みの特徴によって時代区分された「古代」を理解している		○				○		○			35.5	1.0	70	50	▼
4	(4)	飛鳥時代の次の時代が奈良時代であることを理解している		○				○		○			77.8	0.7	75	55	◎
4	(5)	日本で使われている時代の表し方が「年号（元号）」であることを理解している		○				○		○			78.4	6.4	70	50	◎
5	(1)	中国の古代文明で使われていた文字が甲骨文字であることを理解している		○				○		○			73.2	7.0	75	55	
5	(2)	縄文時代の人々の生活の特徴について理解している		○				○		○			55.3	0.8	70	50	
5	(3)	弥生時代につくられた青銅器の中で、主に祭りのための道具（宝物）として使用された銅鐸を理解している		○				○		○			37.1	19.5	70	50	▼
5	(4)	資料を基に、縄文時代から弥生時代になって人口が増加した理由を説明することができる		○				○		○	○		37.2	9.0	60	40	▼
5	(5)	渡来人によって日本に伝えられたものを理解している		○				○		○			42.0	1.5	70	50	▼
6	(1)	聖徳太子によって制定された役人の心得が、十七条の憲法であることを理解している		○				○			○		71.5	10.2	75	55	
6	(2)	資料から、律令国家における当時の日本の支配体制を読み取ることができる		○				○		○			57.9	1.5	70	50	
6	(3)	聖武天皇が東大寺を建てたことを理解している		○				○		○			52.7	8.6	75	55	▼
6	(4)	新しく開墾した土地はいつまでも所有してよいという内容の法律が、墾田永年私財法であることを理解している		○				○		○			49.8	16.1	70	50	▼
6	(5)	資料を基に、正倉院に保存されている白瑠璃瓶がペルシアで発掘された水瓶と似ている理由を説明することができる		○				○		○	○		27.1	14.4	60	40	▼



集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,681	55.3	8.2	69.4	49.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の諸地域	7	56.0	3.2	68.6	48.6	
	日本の地域的特色	5	60.4	5.7	69.0	49.0	
	日本の諸地域	5	67.7	8.1	70.0	50.0	
	中世	5	47.7	12.0	69.0	49.0	▼
	近世	10	50.0	11.0	70.0	50.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	40.2	15.9	58.0	38.0	
	②技能	5	66.7	1.5	68.0	48.0	
	③知識・理解	22	56.2	7.9	72.3	52.3	
問題形式	選択式	15	62.0	1.3	69.3	49.3	
	短答式	12	53.3	13.6	74.2	54.2	▼
	記述式	5	40.2	15.9	58.0	38.0	
活用	「活用」に関する問題	5	40.2	15.9	58.0	38.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の諸地域	日本の地域的特色	日本の諸地域	中世	近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) アンデス山脈の位置と名称を理解している	○						○		○			38.4	5.0	75	55	▼	
1	(2)①A インカ帝国を理解している	○						○	○				76.2	0.6	70	50	◎	
1	(2)①B ヨーロッパ諸国の進出によって、南アメリカでキリスト教が広がったことを理解している	○						○	○				83.7	0.4	70	50	◎	
1	(2)①C メスチソ(メスチーン)を理解している	○						○	○				52.2	0.5	70	50		
1	(2)② 南アメリカの公用語について理解している	○						○	○				55.8	0.4	70	50		
1	(3) 資料から、ブラジルの輸出品の変化を読み取ることができる	○						○	○				42.6	1.2	65	45	▼	
1	(4) 資料を基に、経済を発展させるために大切にしなければならないことを、開発と環境保全とを関連付けて説明することができる	○						○		○	○		43.5	14.5	60	40		
2	(1)① 日本列島が環太平洋造山帯の一部であることを理解している	○						○		○			55.6	11.1	75	55		
2	(1)② 資料から、東京の雨温図の特徴を読み取ることができる	○						○	○				72.9	1.2	70	50	◎	
2	(1)③ 日本海側の気候の特徴について理解している	○						○	○				65.0	0.9	70	50		
2	(2)① 人口が過度に集中して起こる過密の問題、人口が過度に減少して起こる過疎の問題について理解している	○						○		○			56.7	7.8	75	55		
2	(2)② 資料を基に、農山村部で高齢化が進んでいることによる問題点を農業と関連付けて説明することができる	○						○		○	○		51.7	7.6	55	35		
3	(1) 火山の噴火口の周りがくぼんできた地形がカルデラであることを理解している	○						○		○			63.1	12.6	75	55		
3	(2) 再生可能エネルギーを理解している	○						○		○			62.9	5.2	75	55		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の諸地域	日本の諸地域	中世	近世		①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
3	(3)	資料を基に、九州地方の南部で行われている農業の特徴をシラスの特徴と関連付けて説明することができる	○								○	○	48.2	16.5	60	40		
3	(4)①	中国・四国地方の中心的な役割を果たし、平和記念都市（国際平和都市）である広島市を理解している	○								○		89.7	4.6	75	55	◎	
3	(4)②	資料から、本州四国連絡橋の開通による変化を読み取ることができる	○							○			74.3	1.8	65	45	◎	
4	(1)	元の襲来（元寇）を理解している		○						○			73.2	1.5	70	50	◎	
4	(2)	後醍醐天皇と足利尊氏の対立が、南北朝の動乱（内乱）の始まりであることを理解している		○							○		17.5	39.0	75	55	▼	
4	(3)	資料から、室町文化の特徴を読み取ることができる		○						○			60.9	1.3	70	50		
4	(4)	鎌倉幕府と室町幕府の仕組みを理解している		○						○			55.7	1.3	70	50		
4	(5)	資料を基に、鎌倉時代以降の農業の生産力が高まった理由を説明することができる		○							○	○	31.2	16.9	60	40	▼	
5	(1)	関ヶ原の戦いを理解している			○						○		64.7	11.6	75	55		
5	(2)	武家諸法度を理解している			○						○		54.7	20.4	75	55	▼	
5	(3)	江戸時代の身分別の人口の割合について理解している			○						○		29.8	1.3	70	50	▼	
5	(4)	江戸時代の外交のために開かれた窓口を理解している			○						○		47.3	1.6	70	50	▼	
5	(5)	元禄文化を理解している			○						○		39.0	12.1	70	50	▼	
6	(1)	打ちこわしを理解している			○						○		57.0	8.7	70	50		
6	(2)	資料から、江戸時代に使用された農具を読み取ることができる			○						○		82.8	1.8	70	50	◎	
6	(3)①	株仲間を理解している			○						○		40.3	24.7	75	55	▼	
6	(3)②	江戸時代の政治改革の経過（時期）を理解している			○						○		57.1	3.4	70	50		
6	(3)③	資料を基に、松平定信の行った政治改革について不満や批判が高まった理由を説明することができる			○							○	26.5	23.9	55	35	▼	

中学校数学（1年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 数直線上に示された負の整数や、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができている。  
設問2(1)、11(1)
- ◇ 関数の意味を理解すること、比例についてグラフと表とを関連付けて理解することができている。  
設問9(1)(4)  
設問9(3)
- ◆ 比例の関係を式に表すことに課題が見られる。  
設問11(2)(2)
- ◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。  
設問11(2)(2)

■ 特に課題が見られた設問11(2)(2)の誤答例(・)と解説

・いちご30個のときの重さが600gだと思うので、6000gでは300個。  
・いちご1個あたりおよそ20gになる。6kg=6000gなので、6000÷20=300。

・いちご100gのとき4個なので、1個あたりの重さは25g。いちごは6kgあるので、6000÷25=240。  
・重さが300gのとき16個なので、6000÷300=20。16×20=320。

・6000÷200=30。30×10=300。  
・100gあたり4個。y=4x。  
4×6000=24000。  
・xy=6000。20y=6000。y=300。  
・いちごの重さが6kgなので、y=6x。これに800÷40=20を代入してy=120。  
・300個(答えのみを書いている。)

いちご1個あたりの重さを20gと考えて答えを300個と求めることはできているが、「グラフから」などの、いちご1個あたりの重さを20gと考えることができる根拠を書くことができていない。

比の考え方を用いればよいことには気付いているが、(100, 4)(300, 16)など点Aと点Fをつないだ直線を比例の関係とみなすことができず、表の値(グラフ上にない点)を使っている。

具体的な数値を使って求めようとしているが、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することができていない。

■ 設問11(2)(2)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

生徒が、事象を数学的に解釈して問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することができるようになるためには、以下の授業例のように、生徒が解決の見通しをもち、数学的な表現を用いて説明することができるように指導することが大切です。

① 解決の見通しをもち、個数を求める。

点はどうのように並んでいるように見えますか。  
→ 一直線上に並んでいるように見えます。

それでは、点Aと点Fを定規でつないで直線をひいてみましょう。この直線を利用すると、いちごの重さと個数の関係は、どのような関係になっているといえますか？

いちごの重さ (g)	0	100	200	300	400	800
いちごの個数 (個)	0	4	10	16	21	40

原点を通る直線だから、比例の関係になっていると思います。

では、いちごの重さが6kgのときの個数を求めてみましょう。どのようにすればよいですか。

グラフの続きをかいて調べることができると思います。xの値が6000のときのyの値を読めばいいと思います。

グラフの式を求めることができるので、求めた式に重さの値を代入するといちごの個数を求めることができます。

比例式をつかって考えることもできそうです。

では、実際にいちごの重さが6kgのときのいちごの個数を求めてみましょう。

② 問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明する。  
※グラフの式に代入して答えを求めた後の、比例式を使った説明の場面

僕は、100:4=6000:yの比例式をつくりました。

待ってください。100:4はどこからでてきたのですか。

表の値を使いました。直線AFのグラフ上では点Bです。

確かに表にはありますね。では、点Bは直線AFのグラフ上の点だといえますか。

あっ。直線AF上から少しずれています。だからいけません。

そうですね。その値が使えるかどうか判断することが大切です。では、どの点なら使えますか。使えるかどうか根拠を明確にしましょう。そして、使える点を利用した比例式をつくり、もう一度説明してみましょう。

中学校数学（2年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 同類項をまとめること、文字式の意味を具体的な事象と関連付けて読み取ること、対頂角の性質を用いて角の大きさを求めることができている。 設問 1(1)、2(2)、7(1)
- ◇ 度数分布表のある階級の度数を求めること、総度数の意味に基づいてヒストグラムから必要な情報を適切に読み取ることができている。 設問 11(1)、12(1)
- ◆ 単項式や多項式の次数について理解すること、二つの数量の関係が一次関数になることを理解すること、最頻値について理解することに課題が見られる。 設問 2(1)、9(1)、11(2)
- ◆ 度数分布表のある階級の相対度数を求めることに課題が見られる。 設問 11(3)

■ 特に課題が見られた設問2(1)の誤答例(・)と解説

<p>・ア、イを選択している。 ・ア、イ、オを選択している。</p>	<p>・ウ、オを選択している。</p>	<p>・エ、オを選択している。</p>
<p>次数が2であることを、単項式や多項式の中に、<math>a</math>、<math>b</math> や <math>x</math>、<math>y</math> のように、1つの式に文字が2つ含まれているものと捉えている。</p>	<p>次数が2であることを、単項式や多項式の中に <math>x^2</math> や <math>xy^2</math> のように、2乗が含まれているものと捉えている。</p>	<p>次数が2であることを、「2」の数の項や、単項式 <math>-2xy^2</math> の係数「<math>-2</math>」の2に着目して捉えている。</p>

■ 設問2(1)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

生徒が、単項式や多項式の次数について理解できるようになるためには、以下の授業例のように、生徒が用語の意味を確認し、具体的な問題で答えだけでなく判断した理由も説明することができるように指導することが大切です。

**① 用語の意味を説明する。**

先生：単項式、多項式、係数、次数のそれぞれの用語の意味を説明しましょう。

生徒1：単項式は、数や文字についての乗法だけでできている式のことです。多項式は、単項式の和の形で表された式のことです。

生徒2：係数は、式の項があって数と文字の積であるとき、その数のことです。次数は、単項式で、かけあわされている文字の個数のことです。

先生：そうですね。では、多項式の場合の次数はどうなりますか？

生徒3：多項式の次数は、各項の次数の最も大きいものです。

先生：(1)の5つの式の中で単項式はどれですか。また、多項式はどれですか。

生徒4：単項式は、 $5ab$  と  $-2xy^2$  です。多項式は、 $10a+b$  と  $-3x^2-2x+5$  です。

先生：エの2はどちらでもありませんか？

生徒5：2は数の項だけだから、単項式です。

先生：そうですね。では、(1)の5つの式の中で、次数が2であるものはどれですか。

生徒6： $5ab$  は  $5 \times a \times b$  で、文字が2つかけあわされているから、次数が2の式は  $5ab$  です。

先生：そうですね。他にもないか説明してみましょう。

生徒7： $10a+b$  も  $a$  と  $b$  と2つの文字が含まれているから、次数が2の式です。

先生：待って。確かに  $10a+b$  には2つの文字が含まれているけど、多項式は項に分けて各項の次数を考える必要があるから、 $10a$  と  $b$  に分けると、それぞれの次数は1になるよ。だから、 $10a+b$  の次数は2じゃないよ。

先生：(1) 次のアからオの中から、次数が2であるものをすべて選んで、その記号を書きなさい。  
ア  $5ab$  イ  $10a+b$  ウ  $-3x^2-2x+5$  エ 2 オ  $-2xy^2$

先生：では、実際に問題で確かめてみましょう。

生徒8：わかった！  $-3x^2-2x+5$  は多項式で、項に分けるとそれぞれの次数が2と1と0で、最も大きい次数が2だから、次数が2の式です。

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,969	62.3	6.1	70.2	50.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	19	61.8	5.8	71.1	51.1	
	関数	10	63.2	6.8	68.5	48.5	
評価の観点	①見方や考え方	5	42.5	12.4	58.0	38.0	
	②技能	17	64.9	5.3	72.4	52.4	
	③知識・理解	7	70.2	3.7	73.6	53.6	
問題形式	選択式	7	64.8	1.8	70.7	50.7	
	短答式	19	64.4	6.1	72.1	52.1	
	記述式	3	42.8	16.9	56.7	36.7	
活用	「活用」に関する問題	5	42.5	12.4	58.0	38.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	関数	領域等	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 正の数と負の数の加法の計算をすることができる	○				○			○			93.5	0.4	75	55	◎
1	(2) 指数を含む、正の数と負の数の計算をすることができる	○				○			○			69.6	1.0	75	55	
1	(3) 四則を含む、正の数と負の数の計算をすることができる	○				○			○			62.6	1.7	75	55	
2	(1) 数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	○				○			○			92.1	0.7	75	55	◎
2	(2) 絶対値の意味を理解している	○				○			○			71.2	6.4	75	55	
2	(3) 具体的な場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している	○				○			○			61.6	7.0	75	55	
3	(1) 一次式の加法と減法の計算をすることができる	○				○			○			64.1	4.2	75	55	
3	(2) 一次式の乗法の計算をすることができる	○				○			○			67.1	7.5	70	50	
3	(3) 分配法則を用いた文字式の計算をすることができる	○				○			○			48.4	6.4	70	50	▼
4	(1) 係数を理解している	○				○			○			46.7	1.4	75	55	▼
4	(2) 数量の関係を文字式に表すことができる	○				○			○			69.5	4.6	75	55	
4	(3) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○			○			67.7	1.1	75	55	
5	(1) 方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している	○				○			○			71.2	2.0	75	55	
5	(2) 分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○				○			○			33.4	17.4	70	50	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と式	関 数			① 見方 や考 え方	② 技 能	③ 知 識・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	十 分 達 成	
5	(3)	比例式を解くことができる	○						○			52.3	14.7	70	50	
6	(1)	具体的な場面で、方程式をつくることができる	○						○			79.7	7.7	70	50	◎
6	(2)	具体的な事象の中の数量の関係を捉え、正しい方程式を考えることができる	○					○		○		21.5	2.9	60	40	▼
7		具体的な場面における平均の求め方を、正の数と負の数を用いて説明することができる	○					○		○		59.1	9.4	55	35	◎
8		文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取り、与えられた情報から必要な情報を選択して説明することができる	○					○		○		43.3	14.2	60	40	
9	(1)	関数の意味を理解している	○						○			82.0	1.2	70	50	◎
9	(2)	座標平面上に点の位置を示すことができる	○						○			84.0	1.5	75	55	◎
9	(3)	比例の関係を式に表すことができる	○						○			32.4	6.1	70	50	▼
9	(4)	比例について、グラフと表とを関連付けて理解している	○						○			81.2	1.4	70	50	◎
10	(1)	反比例の表において、比例定数の意味を理解している	○						○			77.3	6.7	75	55	◎
10	(2)	反比例の関係をグラフに表すことができる	○						○			49.8	6.7	70	50	▼
10	(3)	反比例の式について、そのグラフ上の点のy座標を基に、x座標を求めることができる	○						○			53.2	6.2	70	50	
11	(1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	○						○			83.5	2.3	70	50	◎
11	(2)①	グラフ上の点の並び方を理想化、単純化して捉え、事象を数学的に解釈することができる	○						○	○		62.4	8.2	60	40	◎
11	(2)②	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することができる	○							○	○	26.0	27.2	55	35	▼

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,663	58.7	7.9	69.7	49.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	13	64.2	8.9	70.0	50.0	
	図形	8	59.8	5.4	71.3	51.3	
	関数	6	49.8	7.4	67.5	47.5	
	資料の活用	5	53.0	9.7	69.0	49.0	
評価の観点	①見方や考え方	6	46.7	15.4	60.8	40.8	
	②技能	18	67.2	7.8	71.7	51.7	
	③知識・理解	8	48.5	2.3	71.9	51.9	▼
問題形式	選択式	11	54.3	2.4	70.5	50.5	
	短答式	17	65.9	8.5	71.8	51.8	
	記述式	4	39.7	20.0	58.8	38.8	
活用	「活用」に関する問題	5	44.8	16.8	59.0	39.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 同類項をまとめることができる	○				○			○			91.1	1.8	75	55	◎	
1	(2) 整式の加法と減法の計算をすることができる	○				○			○			78.2	2.8	75	55	◎	
1	(3) 単項式の乗法の計算をすることができる	○				○			○			81.4	3.7	75	55	◎	
2	(1) 単項式や多項式の次数について理解している	○					○		○			17.0	2.3	75	55	▼	
2	(2) 文字式の意味を具体的な事象と関連付けて読み取ることができる	○				○			○			86.7	0.9	70	50	◎	
2	(3) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○			○			46.6	13.0	70	50	▼	
2	(4) 等式を目的に応じて変形することができる	○				○			○			34.4	21.2	70	50	▼	
3	(1) 連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○			71.0	8.1	70	50	◎	
3	(2) 連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○			64.6	12.3	70	50		
4	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	○				○			○			76.4	3.8	70	50	◎	
5	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○			○			81.7	6.7	70	50	◎	
5	(2) 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	○				○			○	○		40.6	35.0	60	40		
5	(3) 発展的に考えて新たな性質を見いだすことができる	○				○			○	○		65.0	4.0	60	40	◎	
6	(1) 平行移動した図形をかくことができる	○				○			○			59.2	2.4	75	55		



設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		数 と 式	図 形	関 数	資 料 の 活 用	① 見 方 や 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				十 分 達 成	お お む ね 達 成	
6	(2)	扇形の面積を求めることができる	○					○				45.0	14.6	70	50	▼	
6	(3)	円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している	○					○				68.8	1.6	75	55		
6	(4)	球の体積の求め方を理解している	○					○				38.7	2.1	70	50	▼	
7	(1)	対頂角の性質を用いて、角の大きさを求めることができる	○					○				90.9	1.8	75	55	◎	
7	(2)	三角形の外角とそれと隣り合わない二つの内角の和の関係を理解している	○					○				68.9	1.3	75	55		
7	(3)	多角形の内角の和の性質を理解している	○					○				68.7	1.8	70	50		
8		図形の証明を振り返り、改善することができる	○					○		○	○	38.3	17.5	60	40	▼	
9	(1)	二つの数量の関係が一次関数になることを理解している	○					○				36.4	2.4	70	50	▼	
9	(2)	一次関数 $y=ax+b$ について、 $x$ の値の増加に伴う $y$ の増加量を求めることができる	○					○				43.4	13.1	70	50	▼	
9	(3)	一次関数の表から、 $x$ と $y$ の関係を $y=ax+b$ の式に表すことができる	○					○				57.8	3.2	70	50		
9	(4)	一次関数 $y=ax+b$ について、 $a$ と $b$ の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	○					○				67.6	2.9	70	50		
10	(1)	与えられたグラフを事象に即して解釈することができる	○					○				56.4	8.6	70	50		
10	(2)	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる	○					○		○	○	37.3	14.0	55	35		
11	(1)	度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる		○				○				85.6	5.4	75	55	◎	
11	(2)	最頻値について理解している		○				○				21.5	4.1	70	50	▼	
11	(3)	度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる		○				○				37.0	17.0	70	50	▼	
12	(1)	総度数の意味に基づいてヒストグラムから必要な情報を適切に読み取ることができる		○				○				78.0	8.3	70	50	◎	
12	(2)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる		○				○		○	○	42.7	13.6	60	40		

中学校理科（1年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ プレパパートを正しくつくる技能が身に付いている。 設問4(3)
- ◇ 種子植物や再結晶について理解することができている。 設問6(1)、11(2)
- ◆ 双眼実体顕微鏡を適切に使ったり、メスシリンダーを用いて物質の体積を測定したりする技能に課題が見られる。 設問1(2)、8(1)
- ◆ 密度の知識を身の回りの事象に活用することに課題が見られる。 設問10

■ 特に課題が見られた設問10の誤答例(・)と解説

<p>・リングは水よりも密度が小さく、ラベルやボトルは密度が大きいから。</p>	<p>・リングは水よりも密度が小さいから水に浮くので、外さなくてよい。</p>	<p>・水よりも密度の小さいリングは水に浮き、密度の大きいラベルは水に沈むから。</p>
<p>リング、ラベル、ボトルの密度を水と比較して考えることができているが、水に入れたときの浮き沈みについての記述がないため、ラベルを外さなければいけない理由に注目して説明することができていない。</p>	<p>密度を水と比較して、リングが浮くことを考えることができているが、ラベルやボトルの密度に注目した記述がないため、ラベルを外さなければいけない理由に注目して説明することができていない。</p>	<p>リングやラベルの密度を水と比較して、水に入れたときの浮き沈みについて考えることができているが、ボトルの密度や浮き沈みについての記述がないため、ボトルとラベルが共に水に沈んでしまって分別ができないことを説明することができていない。</p>

■ 設問10の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

**指導改善のポイント**  
生徒が、密度の知識を身の回りの事象に活用することができるようになるためには、以下の授業例のように、身の回りの事象が起こる理由を考えたり説明したりするような指導をすることが大切です。

**【表】**

部品名	物質名	密度 [g/cm <sup>3</sup> ]
リング	ポリプロピレン	0.90
ラベル	ポリスチレン	1.05
ボトル	ポリエチレンテレフタレート (PET)	1.38
	水	1.00

① リサイクル工場では、水を使って部品を物質ごとに分けていることを知り、リングやラベル、ボトルが水に浮くか沈むかを、理由をつけて考える。

リサイクル工場では、ペットボトルを砕いた後に水に入れ、水に浮くか沈むかで部品を物質ごとに分ける手順があります。【表】を基に、リングやラベル、ボトルがなぜ水に浮くか沈むかが分かりますか。

【表】を見ると、水の密度は 1.00g/cm<sup>3</sup>です。リングの密度は 0.90g/cm<sup>3</sup>なので、水に浮きます。

ラベルとボトルは、水より密度が大きいので沈みます。

② ペットボトルをゴミに出すときに、リングはボトルから外さなくてよいのに、ラベルを外さなければいけない理由を説明する。

リングとラベル、ボトルを同時に水に入れたとき分けることができないのは、どれとどれですか。

ラベルとボトルは両方とも水に沈んでしまうので、分けることができません。

ペットボトルをゴミに出すとき、リングはボトルから外さなくてよいのに、ラベルは外さなければいけないです。この理由が説明できますか。

「ラベルを外さなければならぬのは、リングは水に浮くが、ラベルとボトルは両方とも水に沈んでしまって分けることができないから」です。

それだけだと、部品が水に浮いたり沈んだりする理由が伝わりませんね。水に浮いたり沈んだりする理由も含めて説明してください。

「ラベルを外さなければいけないのは、リングは水よりも密度が小さく、水に浮くが、ラベルとボトルは水と比べて密度が大きく、両方とも水に沈んでしまって分けることができないから」です。

中学校理科（2年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 熱分解やマグネシウムの原子の記号など化学分野の基礎的な用語を理解することができる。  
設問6(2)、7(3)
- ◇ 多細胞生物や魚類の呼吸の仕方など生物分野の基礎的な用語を理解することができる。  
設問9(3)、10(1)、12(1)(2)
- ◆ マグネシウムを加熱する実験を安全に行ったり、顕微鏡を適切に使ったりする技能について課題が見られる。  
設問8(1)、9(2)
- ◆ 仮説が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題が見られる。  
設問11

■ 特に課題が見られた設問11の誤答例(・)と解説

<p>・アを選択している。</p>	<p>・イを選択している。</p>	<p>・ウを選択している。</p>
<p>仮説にある条件に注目して考えることができず、どのような魚でも攻撃してしまうことになっているということを考えることができていない。</p>	<p>仮説にある2つの条件のうち、腹の赤さという条件には注目して実験結果を考えることができているが、腹のふくらみという条件に注目して考えることができていない。</p>	<p>仮説にある2つの条件のうち、腹のふくらみという条件には注目して実験結果を考えることができているが、腹の赤さという条件に注目して考えることができていない。</p>

■ 設問11の誤答傾向を基にした指導改善のポイント（※「動物の体のつくりと働き」で例示しています。）

**指導改善のポイント**

生徒が、仮説が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができるようになるためには、以下の授業例のように、条件を制御しながら実験方法を構想したり、予想が確かめられた場合に得られる結果を考えたりするような指導をすることが大切です。

**【めあて】**  
だ液がデンプンを糖に変えることを調べよう

**① 実験を構想する時間に、変える条件・変えない条件を意識する。**

だ液のはたらきを明らかにするために実験しますが、この実験で変える条件や変えない条件は何ですか。

変える条件は、だ液を入れたり入れなかったりすることで、変えない条件は、それ以外の液体の量や試験管などの道具、温度などです。

表にまとめると、次のようになります。

	デンプン	糖
だ液を入れる実験後	×	○
だ液を入れない実験後	○	×

デンプンがあるかを確認するためには、ヨウ素液を使いましたね。では、だ液を入れる実験後にヨウ素液を入れると反応しますか。また、だ液を入れない実験後では反応しますか。

だ液を入れる実験後には、デンプンがないはずだから、ヨウ素液は反応しないと思います。だ液なしの実験後にはデンプンがあるはずなので、反応すると思います。

**② 条件に沿って実験を行ったときに、どのような結果が得られるかを考える。**

だ液がデンプンを糖に変えるということが正しいなら、だ液を入れる実験では、実験後にデンプンはありますか。また、糖はありますか。

だ液を入れる実験では、実験後にデンプンはなく、糖はあります。

だ液を入れない実験ではどうですか。だ液を入れる実験も含めて表にまとめましょう。

次に、糖について考えてみましょう。糖があるかを確認するためには、ベネジクト液を入れて加熱します。加熱したときに糖があると、赤褐色の沈殿ができます。このベネジクト液を使ったときの実験結果について考えてみましょう。

だ液を入れる実験後には、糖があるはずだから、ベネジクト液を使うと赤褐色の沈殿ができると思います。だ液を入れない実験後には糖がないはずなので、沈殿はできないと思います。

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,992	57.9	4.0	68.8	48.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	化学的領域	12	56.4	5.1	68.8	48.8	
	生物的領域	16	59.0	3.2	68.8	48.8	
評価の観点	①思考・表現	12	50.0	3.4	62.1	42.1	
	②技能	7	60.5	2.1	72.9	52.9	
	③知識・理解	9	66.3	6.2	74.4	54.4	
問題形式	選択式	17	59.1	1.1	67.6	47.6	
	短答式	8	60.3	7.8	73.1	53.1	
	記述式	3	44.3	9.9	63.3	43.3	
活用	「活用」に関する問題	5	51.0	3.7	59.0	39.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		化学的領域	生物的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1) ルーペを適切に使うことができる	○				○				72.1	0.1	75	55	
1	(2) 双眼実体顕微鏡を正しい手順で使うことができる	○				○				44.7	0.3	70	50	▼
1	(3) 花のつくりを理解している	○				○				67.7	0.4	75	55	
2	被子植物と裸子植物の知識を活用して、イチヨウについて考えることができる	○				○			○	48.3	0.2	60	40	
3	(1) 光合成の実験を適切な方法で行うことができる	○				○		○		56.6	7.6	70	50	
3	(2) 光合成の実験の結果を基に、光合成に日光が必要であることを確かめる方法を構想することができる	○				○				65.9	1.3	65	45	◎
3	(3) 光合成の実験の結果を基に、光合成に葉緑体に関連していることを確かめる方法を構想することができる	○				○		○		51.6	1.1	60	40	
4	(1) 対照実験を理解している	○				○				65.3	15.2	75	55	
4	(2) 蒸散の実験の結果を基に、葉の表から蒸散した量を推定することができる	○				○			○	22.1	5.8	65	45	▼
4	(3) プレパラートを正しくつくることができる	○				○				86.9	0.9	75	55	◎
5	蒸発により温度が下がることを調べる実験を構想することができる	○				○			○	69.3	1.0	60	40	◎
6	(1) 種子植物を理解している	○				○			○	85.9	4.5	75	55	◎
6	(2) 植物の特徴を基に、植物を分類することができる	○				○				64.5	1.0	65	45	
6	(3) タンポポが合弁花類であることを理解している	○				○				32.1	0.8	75	55	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		化学的領域	生物的領域			①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	十分達成	
6	(4)	コケ植物が胞子で増えることを理解している	○				○		○			59.9	8.9	75	55	
7		既に行った実験について検討して改善し、カイワレダイコンが光に向かって育つ性質を調べる実験を構想することができる	○				○		○	○		50.9	1.6	60	40	
8	(1)	メスシリンダーを用いて、物質の体積を適切に測定することができる	○				○		○			42.2	3.3	75	55	▼
8	(2)	密度を求める方法を理解している	○					○	○			52.1	10.8	70	50	
8	(3)	金属に共通する性質を基に、物質が金属かどうかを推定することができる	○				○		○			62.1	1.5	65	45	
8	(4)	ガスバーナーを適切に使うことができる	○				○		○			64.5	1.0	70	50	
9	(1)	二酸化炭素を適切な方法で発生させることができる	○				○		○			56.3	1.3	75	55	
9	(2)	気体の性質を基に、上方置換法で集めることができる気体を推定することができる	○				○			○		41.3	7.5	65	45	▼
9	(3)	様々な気体の性質を基に、未知の気体を推定することができる	○				○		○			50.2	3.8	65	45	
10		密度についての知識を活用して、ペットボトルの分別について説明することができる	○				○			○	○	34.9	14.5	55	35	▼
11	(1)	溶解度の知識を基に、ある量の物質が水に完全に溶けるかどうかを推定することができる	○				○		○			39.0	2.0	60	40	▼
11	(2)	再結晶を理解している	○					○	○			89.8	4.9	75	55	◎
12	(1)	気体の状態での粒子の様子を理解している	○					○	○			79.1	1.3	75	55	◎
12	(2)	沸点を理解している	○					○	○			65.3	9.1	75	55	

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,683	56.0	7.2	70.0	50.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	物理的領域	6	39.9	11.3	67.5	47.5	▼
	化学的領域	9	58.9	6.9	71.7	51.7	
	生物的領域	10	69.1	4.1	72.0	52.0	
	地学的領域	5	43.9	9.0	66.0	46.0	▼
評価の観点	①思考・表現	8	39.1	5.8	61.3	41.3	▼
	②技能	6	46.5	9.0	70.0	50.0	▼
	③知識・理解	16	68.0	7.3	74.4	54.4	
問題形式	選択式	11	53.8	1.6	68.2	48.2	
	短答式	15	57.4	11.1	72.0	52.0	
	記述式	4	56.8	8.1	67.5	47.5	
活用	「活用」に関する問題	5	41.3	3.4	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	①思考・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 反射の法則を理解している	○					○		○			49.4	12.5	75	55		▼
1	(2) 全反射を理解している	○					○		○			47.7	21.4	75	55		▼
1	(3) 光の屈折によりできる像の位置を理解している	○					○		○			39.4	1.3	70	50		▼
2	(1) 物体が接している面に働く圧力を求めることができる	○					○			○		8.3	15.5	65	45		▼
2	(2) 面積が大きくなると圧力が小さくなり、地面に与える効果が変わることを説明することができる	○					○			○		50.6	7.2	60	40		
3	木琴についての実験結果を基に、木琴の鍵盤の長さを推定することができる	○					○			○		44.0	10.2	60	40		
4	(1) 断層を理解している			○			○			○		53.2	19.4	75	55		▼
4	(2) 示相化石を理解している			○			○			○		36.2	20.3	75	55		▼
4	(3) 地層についての情報を基に、地層形成の時間的変化を推定することができる			○			○		○	○		50.6	1.5	60	40		
4	(4) 鉱物についての知識を活用して、火山灰に対していくつかの操作を行った後に残る鉱物を推定することができる			○			○		○	○		22.7	1.8	60	40		▼
5	液化化現象について、仮説を実証するための実験を構想することができる			○			○		○	○		56.5	2.1	60	40		
6	(1) 原子を理解している	○					○		○			73.6	1.2	75	55		
6	(2) マグネシウムの原子の記号を理解している	○					○		○			92.0	1.2	75	55		◎
6	(3) 水の電気分解を化学反応式で表すことができる	○					○		○			25.8	20.7	70	50		▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	① 思考・ 表現	② 技能	③ 知識・ 理解	選択式	短答式				記述式	十分 達成	
7	(1)	酸化銀の熱分解の実験を、安全に行うことができる	○							○	56.7	7.7	70	50		
7	(2)	酸化銀の熱分解について、原子・分子のモデルを基に理解している	○							○	56.9	1.7	75	55		
7	(3)	熱分解を理解している	○							○	85.3	5.1	75	55	◎	
8	(1)	マグネシウムを加熱する実験を安全に行うことができる	○							○	43.6	11.3	70	50	▼	
8	(2)	マグネシウムとマグネシウムに化合した酸素の質量の変化をグラフに表すことができる	○							○	48.4	6.6	70	50	▼	
8	(3)	実験結果を基に、マグネシウムとできた酸化マグネシウムの質量比を考えることができる	○							○	47.7	6.5	65	45		
9	(1)	適切な理由を基にして、プレパラートをつくることができる	○							○	76.4	6.2	70	50	◎	
9	(2)	顕微鏡を適切に使うことができる	○							○	27.9	1.4	70	50	▼	
9	(3)	多細胞生物を理解している	○							○	82.8	7.0	75	55	◎	
10	(1)	感覚器官を理解している	○							○	80.8	6.3	75	55	◎	
10	(2)	刺激を受けて反応するまでの信号の伝達を理解している	○							○	72.6	1.8	75	55		
10	(3)	反射を理解している	○							○	67.3	1.7	70	50		
11		魚を使った実験について、仮説が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができる	○							○	32.4	1.6	60	40	▼	
12	(1)	魚類の呼吸の仕方を理解している	○							○	92.2	2.4	75	55	◎	
12	(2)	カエルが両生類に分類されることを理解している	○							○	85.1	3.4	75	55	◎	
12	(3)	シソチョウを理解している	○							○	73.9	9.4	75	55		

中学校英語（1年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

◇ 対話やまとまりのある英語を聞いて、概要を理解することができている。	設問 3(1)(2)、4
◇ 対話文を読んで、その後の展開を捉えることができている。	設問 8(3)
◆ 対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書くことに課題が見られる。	設問 9(1)(2)
◆ 疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書くことに課題が見られる。	設問 10(1)

■ 特に課題が見られた設問 10(1)の誤答例(・)と解説

<p>・What do you from?</p> <p>出身地を尋ねることは理解できているが、正しい疑問詞や動詞を選択することができていない。</p>	<p>・Are you from?</p> <p>出身地を尋ねることは理解できているが、前置詞の用法に誤りがあり、4語以上という条件を満たしていない。</p>	<p>・Where you from?</p> <p>出身地を尋ねることは理解できているが、疑問文の構造を理解することができておらず、4語以上という条件を満たしていない。</p>
--	---	---

■ 設問 10(1)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

生徒が、疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書くことができるようになるためには、以下の授業例のように、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動を通して知識を活用したり、既習表現に長期的に繰り返し触れたりできるように指導をすることが大切です。

**Today's goal**  
新しく来られる ALT の先生にインタビューをしよう

**① コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解し、見通しを立てる。**

A new ALT is going to come next week! Let's get to know each other. You're going to interview in English.

楽しみだな。いろいろな質問がしたいな。

What do you want to ask? Let's think of many questions.

どこの国から来るんだろう。

日本食は好きかな。

Please write your questions on your worksheet.

**② グループでそれぞれが考えた質問内容を読み合い、気づきを伝え合う。**

Share your ideas in groups. Then, correct the errors together.

相手に失礼にならないような質問をしないとね。私は出身地を聞きたいんだけど、“What do you from?”でいいかな？場所を聞く言い方は前に勉強したけど…

場所を聞くときは“Where”だよ。“Where”のあとに疑問文の語順だったよね。“are you～?”と“do you～?”のどっちを使うのかな？

自分の出身を言うときは“I'm from～”だから“Where are you from?”と聞けばいいんじゃないかな。

「～から来る」は“come from～”という言い方もあるんじゃない？“Where do you come from?”はどう？

疑問文の形に気を付けて質問を考えることができますね。Where are you from? の他にも Where do you come from?と尋ねることもできますね。

**③ インタビュー内容を決定する。**

いろいろな言い方があるんだな。じゃあ日本食が好きか聞いてみよう。“Do you like Japanese food?”かな。

そうだね。ALTの先生が“Yes”と言われたら、さらに“What Japanese food do you like?”と質問してみようよ。

Now you're ready to interview. Let's ask her many questions. After the interview, you're going to write about it.



中学校英語（2年生）

■ 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解することができている。 設問1(1)(2)
- ◇ まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解することができている。 設問4(1)(2)
- ◆ まとまりのある英文を読み、その内容に対して自分の考えを示すことができるよう、要点や書き手の意見を捉えることに課題が見られる。 設問6(2)、7(3)
- ◆ 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くことに課題が見られる。 設問8(1)(2)

■ 特に課題が見られた設問7(3)の誤答例(・)と解説

<p>・Many people can't get enough water (because it is a limited resource.)</p>	<p>・I think we must save water (because it is a limited resource.)</p>	<p>・We use 60L to wash the dishes (because it is a limited resource.)</p>
<p>英文の内容を理解することはできているが、書き手の最も伝えたいことを理解することができていない。</p>	<p>書き手の最も伝えたいことを理解することはできているが、前後の文とのつながりを考えることができていない。</p>	<p>書き手の最も伝えたいことを理解することや、前後の文とのつながりを考えることができていない。</p>

■ 設問7(3)の誤答傾向を基にした指導改善のポイント

指導改善のポイント

生徒が、まとまりのある英文を読み、その内容に対して自分の考えを示したり、要点や書き手の意見を捉えたりすることができるようになるためには、以下の授業例のように、領域間の統合を図った言語活動を通して主体的に読んだり書いたりすることができるように指導をすることが大切です。

Do you usually think about water? Water is important to us. 60% of our \*1body is water. We can't live \*2without it.  
 Japanese people don't usually think about water. In Japan, one \*3person uses about 300L every day. We use 120L to \*4take a bath. We use 60L to wash the \*5dishes. We use 100L to wash clothes.  
 How about around the world? People around the world use \*6only 170L every day. Many people can't get \*7enough water. 20% of people can't get \*8drinkable water.  
 I didn't know that Japanese people use so much water every day. I think we must \*9save water. What do you think?

① 英文を読み、大まかな内容や要点をとらえる。

Read the article to understand the outline.

She is talking about saving water.

That's right. Then, what's the main point of Emi's speech?

She says water is important to us.

She also says we must save water.

That's right.

② 話題になっている問題に対して、自分の考えをペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりする。

Now let's think about water. Do you agree with Emi? Why? Talk in groups.

I agree with her. Water is important.

Why do you think so?

水はいつでも手に入ると思っていたけど、大きな台風の後には水道が使えなくなるとニュースで見たよ。だから、災害の時だけでなく普段から水を大切にしなければいけないと思う。How about you?

I don't agree with Emi. 新聞で、もうすぐ海水から水を作れるようになるって読んだよ。そうなれば、今、水が十分に得られない国でも水の心配はいらなくなるよね。

③ 自分の考えを英語で書き、グループで共有する

Write your opinions. You don't have to care about accuracy for now. Don't worry about making mistakes. You'll get better.

相手に伝わりやすいように工夫したいな。書く順番を考えて書こう。

When you finish writing, share your opinions in groups again. Give some advice to each other.

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,994	64.3	5.0	69.0	49.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	79.9	0.2	70.6	50.6	◎
	読むこと	10	65.0	3.6	69.5	49.5	
	書くこと	10	47.2	11.3	68.5	48.5	▼
評価の観点	①表現	6	49.8	13.4	65.8	45.8	
	②理解	16	69.6	2.4	69.4	49.4	◎
	③言語・文化	11	53.1	9.6	70.5	50.5	
問題形式	選択式	14	75.2	0.7	69.3	49.3	◎
	短答式	4	59.3	7.1	72.5	52.5	
	記述式	8	47.7	11.4	66.9	46.9	
活用	「活用」に関する問題	5	67.7	4.7	62.0	42.0	◎

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 絵から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			98.4	0.1	75	55	◎	
1	(2) 絵から読み取った情報と関連付けて、英語の質問に答える	○				○		○			76.7	0.2	75	55	◎	
1	(3) 対話を聞いて、必要な情報を理解する	○				○		○			67.6	0.4	70	50		
2	(1) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			75.7	0.2	70	50	◎	
2	(2) 対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			51.3	0.4	70	50		
3	(1) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			98.1	0.2	70	50	◎	
3	(2) 対話を聞いて、概要を理解する	○				○		○			86.1	0.3	70	50	◎	
4	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する	○				○		○	○		85.4	0.2	65	45	◎	
5	(1) 対話文を読んで、対話の流れに合った発言の内容を捉える	○				○		○			74.1	0.9	70	50	◎	
5	(2) 対話文を読んで、相手の発言に応じた発言の内容を捉える	○				○		○			46.9	1.3	70	50	▼	
6	説明文を読んで得た複数の情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○			69.9	0.9	70	50		
7	(1) 説明文を読んで、話の展開に応じた語を捉える	○				○		○			79.5	6.4	70	50	◎	
7	(2) 説明文を読んで、要点を理解する	○				○		○	○		63.0	1.3	60	40	◎	
8	(1) 対話文を読んで、対話の流れに合った発言の内容を捉える	○				○		○			67.7	1.2	70	50		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		聞くこと	読むこと	書くこと		① 表 現	② 理 解	③ 言 語 ・ 文 化	選 択 式	短 答 式	記 述 式				十分 達 成	おお む ね 達 成	
8	(2)	対話文を読んで、発言の意図をつかむ	○				○		○			82.2	1.2	70	50	◎	
8	(3)	対話文を読んで、その後の展開を捉える	○				○		○	○		76.9	1.5	65	45	◎	
9	(1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○			○	○		○		44.6	10.2	75	55	▼	
9	(2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○			○	○		○		45.5	11.5	75	55	▼	
10	(1)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○			○	○		○		24.0	15.2	65	45	▼	
10	(2)	疑問文の構造を理解し、状況に合った文を正しく書く		○			○	○		○		47.0	21.5	65	45		
11	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○		○		32.9	5.0	70	50	▼	
11	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○		○		50.5	5.8	70	50		
12	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○		○		60.7	9.0	75	55		
12	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○		○		53.6	14.1	70	50		
12	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○			○	○		○	○	50.4	12.7	60	40		
13		自己紹介の文に、相手に対する質問を加えた、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く		○			○			○	○	62.8	7.9	60	40	◎	

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,663	50.1	8.9	65.7	45.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	67.7	0.5	67.5	47.5	◎
	読むこと	10	42.5	11.9	61.5	41.5	
	書くこと	11	42.5	13.4	67.3	47.3	▼
評価の観点	①表現	6	35.5	22.0	64.2	44.2	▼
	②理解	18	53.7	6.9	64.2	44.2	
	③言語・文化	10	43.7	12.5	68.5	48.5	▼
問題形式	選択式	16	59.5	1.5	66.6	46.6	
	短答式	1	29.0	11.4	60.0	40.0	▼
	記述式	11	38.4	19.4	65.0	45.0	▼
活用	「活用」に関する問題	8	47.3	16.6	60.6	40.6	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)① 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			○	86.8	0.4	75	55	◎
1	(1)② 自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報を理解する	○			○			○			○	73.3	0.4	70	50	◎
1	(2) まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する	○			○			○		○	○	73.9	0.4	65	45	◎
2	(1) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			○	48.6	0.6	70	50	▼
2	(2) 対話の中の質問を聞いて、適切に応じる	○			○			○			○	53.2	0.6	70	50	
3	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する	○			○			○			○	60.1	0.7	65	45	
4	(1) まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○		○	○	74.5	0.6	65	45	◎
4	(2) まとまりのある英語を聞いて、話し手の意図や聞き手として必要な情報を理解する	○			○			○		○	○	71.3	0.7	60	40	◎
5	(1) 対話の内容とグラフから読み取った情報とを関連付けて捉える	○			○			○			○	61.0	1.1	65	45	
5	(2) 対話文を読んで、展開を考える	○			○			○			○	65.9	1.3	65	45	◎
6	(1) 対話文を読んで、人称代名詞が指す内容を捉える	○			○			○			○	29.0	11.4	60	40	▼
6	(2) 対話文の流れに基づいて、人物の発言を考える	○			○			○		○	○	17.0	28.1	60	40	▼
6	(3) 対話文を読んで、内容を正しく理解する	○			○			○			○	36.3	2.8	60	40	▼
7	(1) 説明文を読んで、話のあらすじを理解する	○			○			○			○	63.5	2.1	65	45	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと		①表現	②理解	③言語・文化	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	十分達成	
7	(2)	説明文に書かれている意見に対する賛否を、その理由から判断する	○					○				41.4	2.9	60	40	
7	(3)	説明文の内容を理解し、感想を考える	○					○		○	○	24.2	41.4	55	35	▼
8	(1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く	○					○	○			22.6	28.8	65	45	▼
8	(2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く	○					○	○			14.5	31.4	65	45	▼
9	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	○					○				84.4	3.5	75	55	◎
9	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	○					○				46.0	3.7	70	50	▼
9	(3)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	○					○				38.1	5.0	70	50	▼
10	(1)	文の中で適切に接続詞を用いる	○					○				32.3	1.7	70	50	▼
10	(2)	文の中で適切に接続詞を用いる	○					○				53.8	1.9	70	50	
11	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	○					○	○			58.9	10.5	75	55	
11	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	○					○	○		○	43.4	22.9	65	45	▼
11	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	○					○	○		○	42.6	15.3	60	40	
12	(1)	レポートの内容とグラフから読み取った情報とを関連付けて捉える	○					○				55.3	5.2	70	50	
12	(2)	レポートの内容を踏まえた感想や意見を書く	○	○				○	○		○	31.2	23.1	55	35	▼